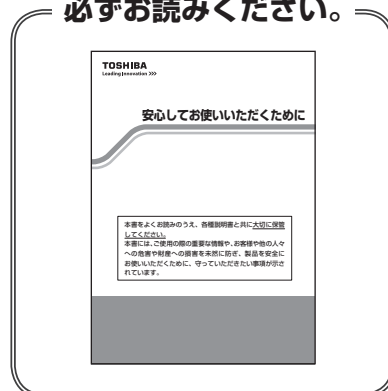
もくじ

『オンラインマニュアル』もあわせてご覧ください。
参照 「1章 6-2 パソコンの画面で見るマニュアル」

はじめに

このたびは、本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

⚠危険	"取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと"を示します。
⚠警告	"取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること"を示します。
⚠注意	"取り扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること"を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルやほかのマニュアルへの参照先を示します。 ● このマニュアルへの参照の場合…「　」 ● ほかのマニュアルへの参照の場合…『　』

＊1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2 傷害とは、治療に入院・長期の通院を要さない、けが、やけど（高温・低温）、感電などをさします。
＊3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

WindowsまたはWindows 7

特に説明がない場合は、Windows® 7 Home PremiumまたはWindows® 7 Professionalを示します。

Home搭載モデル

Windows® 7 Home Premiumを搭載しているモデルを示します。

Pro搭載モデル

Windows® 7 Professionalを搭載しているモデルを示します。

Bluetooth機能搭載モデル

Bluetooth機能を搭載しているモデルを示します。

ご購入のモデルの仕様については、『＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

3 記載について

- 記載内容には、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵フラッシュメモリや付属のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について、表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。
  画面右上の［表示方法］が「大きいアイコン」または「小さいアイコン」になっている場合は、「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。

（表示例）

- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。
  画面の表示と異なる場合がありますが、読み換えてご使用ください。

4 Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Live、Windows Media、Aero、Excel、MSN、OneNote、Outlook、PowerPoint、SkyDriveは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Intel、インテル、インテルCore、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- SDロゴは商標です。（ ）
- SDHCロゴは商標です。（ ）
- SDXCロゴは商標です。（ ）
- HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Maltimedia Inter faceは、HDMI Licensing LLC.の登録商標または商標です。
- LaLaVoice、ConfigFreeは、株式会社東芝の登録商標または商標です。
- Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標ならびに登録商標です。
- McAfee、SiteAdvisorおよびマカフィーは米国法人McAfee, Inc. またはその関係会社の登録商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスター、ウイルスバスタークラウドはトレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- Javaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
- デジブックは株式会社トリワークスの登録商標です。
- デジタルアーツ/DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター/i-フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。
- Evernoteは、米EVERNOTE社の登録商標です。
- 「Yahoo!」は、Yahoo!Inc.の登録商標です。
  ヤフー株式会社は、これに関する権利を有しています。
- Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。

本書に掲載の商品の名称やロゴは、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（たとえば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。
これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

このほかの使用制限事項につきましては各種説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

6 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

7 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。
必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をタップする

8 お願い

- 内蔵フラッシュメモリにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows標準のシステムツールまたは本書に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵フラッシュメモリにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品の画像データは、本製品上で壁紙に使用する以外の用途を禁じます。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有料にてパスワードを解除します。この場合、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワードの設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
  セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、当社はいっさいの責任を負いません。
- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルなどは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新の状態で使用する必要があります。本製品に用意されている「ウイルスバスター」は、インターネットに接続していると自動的に最新の状態に更新されますが、90日間の使用制限があります。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。
  ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、ほかのウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『ソフトウェアに関する注意事項』、Windowsのセットアップ時に表示されるライセンス条項およびエンドユーザー使用許諾契約書をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書が表示されなくなります。リカバリーを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。当社ホームページで登録できます。

参照 詳細について『オンラインマニュアル』

9 ［ユーザーアカウント制御］画面について

操作の途中で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。
パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

10 環境依存文字について

環境依存文字とは、入力した文字を漢字へ変換するときに表示される候補の右側に「環境依存文字」または「環境依存文字（unicode）」と表示されるものです。

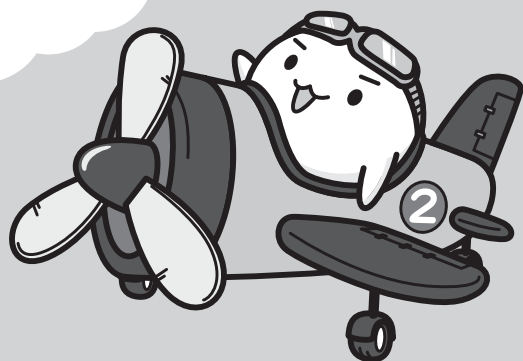
（表示例）

ユーザーアカウント名やフォルダー名に環境依存文字が含まれていると、ファイルの読み込みや保存などが正常に動作しないことがあります。
ファイル名やファイル内の文字列に環境依存文字が含まれていると、ファイル名が「?」などのように正しく表示されず、正常に動作しないことがあります。
また、アプリケーション上でファイルの編集中に入力した文字列に環境依存文字が含まれていると、作成したファイル上で正しく表示されないことがあります。
このような場合には、環境依存文字を含まない文字列に変更してください。
CD／DVDなどの記録メディアにデータを書き込むときは、環境依存文字が含まれていないことをあらかじめ確認してから作業を行ってください。

1 章

パソコンの準備

この章では、パソコンの置き場所、Windowsのセットアップ、電源の切りかた／入れかたなど、お買い上げいただいてから実際に使い始めるまでの準備と、本体各部の名前や基本的な使いかたについて説明しています。
また、本製品でご用意しているマニュアルについて説明しています。

1 使う前に確認する

1 箱を開けたらまずはこれから

■箱の中身の確認

『＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照して、付属品がそろっているか、確認してください。足りない物がある場合や、破損している物がある場合は、東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

参照 東芝PCあんしんサポート『東芝PCサポートのご案内』

■型番と製造番号を確認

本体の裏面のカバーをはずしたところに型番と製造番号が記載されています。保証書に同じ番号が記載されていることを確認してください。番号が違う場合や、不備があった場合は、東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

参照 記載位置について「本章 2 - 3 裏面（カバーを取りはずした状態）」

2 忘れずに行ってください

■はじめに

ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『ソフトウェアに関する注意事項』、Windowsのセットアップ時に表示されるライセンス条項およびエンドユーザー使用許諾契約書をお読みください。

■保証書は大切に保管

故障やトラブルが起こった場合、保証書があれば保証期間中（保証期間については保証書を確認してください）は東芝の無料修理サービスが受けられます。

保証書に記載の内容を読んで、確認したあと、大切に保管してください。

■海外保証を受けるには

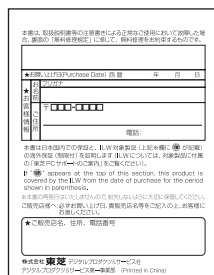
海外で使用するときは「海外保証（制限付）」（ILW:International Limited Warranty）により、海外の所定の地域で、保証書に記載の無料修理規定および制限事項・注意事項の範囲内で修理サービスを利用できます。

利用方法、保証の詳細は、『東芝PCサポートのご案内』の記載内容および保証書に記載の無料修理規定を読んで、確認してください。

■Product Keyは大切に保管

本製品には、パソコン用基本ソフト（OS）としてマイクロソフト社製のWindowsが搭載されています。このWindowsにそれぞれ割り当てられている管理番号を「Product Key」といいます。Product Keyは本体裏面のカバーをはずしたところに貼られているMicrosoft®の「Certificate of Authenticity」というラベルに印刷されています。

このラベルは絶対になくさないようにしてください。再発行はできません。

紛失した場合、マイクロソフト社からの保守サービスが受けられなくなります。

3 最適な場所で使う

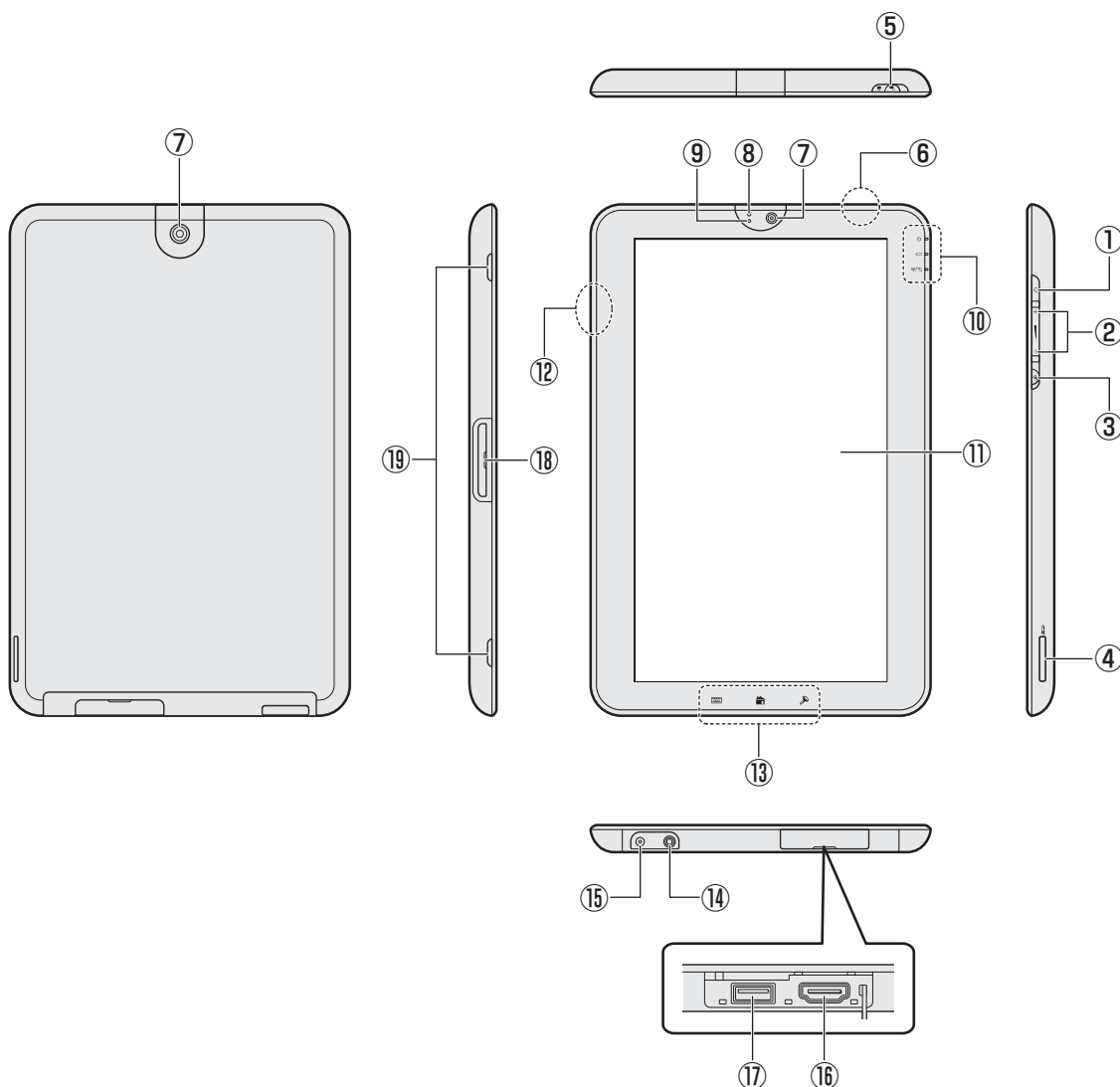
人間にとって住みやすい温度と湿度の環境が、パソコンにも最適な環境です。
次の点に注意して置き場所、使う場所を決めてください。

- 安定した場所に置きましょう。
  不安定な場所に置くと、パソコンが落ちたり倒れたりするおそれがあり、故障やけがにつながります。
- 温度や湿度が高いところは避けましょう。
  暖房や加湿器の送風が直接あたる場所はよくありません。
- 強い磁気を発するものの近くで使用しないでください。
  磁石はもちろん、スピーカー、テレビの近くは磁気の影響を受けます。磁気ブレスレットなどもパソコンを使用するときははずすようにしましょう。
- 照明や日光があたる位置も考慮しましょう。
  照明や日光が直接ディスプレイにあたると、反射して画面が見づらくなります。
- ラジオやテレビの近くで使用しないでください。
  ラジオやテレビの受信障害を引き起こすことがあります。
- 無線通信装置から離してください。
  携帯電話も無線通信装置の一種です。

2 各部の名称
－外観図－

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれの詳細は、各参照ページや『オンラインマニュアル』を確認してください。

お願い 外観図について

- 本製品に表示されている、コネクタ、LED、スイッチのマーク（アイコン）は最大構成を想定した設計となっています。ご購入いただいたモデルによっては、機能のないものがあります。ご購入のモデルの仕様については、『＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

① 電源スイッチ
② − + 音量ボタン（音量小ボタン、音量大ボタン）
　音量を調整します。
③ オリエンテーションロックスイッチ
　画面が縦や横に回転しないように、向きを固定するスイッチです。
④ ブリッジメディアスロット
　SDメモリカードをセットします。
⑤ カバーロック
　カバーが本体からはずれないようにするためのスイッチです。
⑥この部分に無線LANのアンテナが内蔵されています。
⑦Webカメラ（前面、背面）
⑧WebカメラLED
⑨マイク
⑩システムインジケーター（P.16）
⑪ディスプレイ
⑫この部分にBluetoothのアンテナが内蔵されています（Bluetooth機能搭載モデルのみ）。
⑬ボタン（P.16）
⑭ マイク入力/ヘッドホン出力共通端子
　ヘッドセット／ヘッドホンを接続します。
⑮ DC IN XXV 電源コネクタ
⑯ HDMI HDMI出力端子
　HDMIケーブルを接続して、HDMI入力対応機器（テレビ、プロジェクターなど）に本製品の映像を表示します。
⑰ USBコネクタ＊1
　USB対応機器を接続します。
⑱ドッキングポート
　東芝製オプションのポート拡張クレードルを接続することができます。
⑲スピーカー

＊1 設定を行うと、パソコン本体の電源が入っていない状態でも、USBコネクタから外部機器に電源を供給することができます。

参照 USBの常時給電について『オンラインマニュアル』

お願い 本製品の本体について

■ **画面／スイッチ／ボタンの操作にあたって**
- あらかじめ、「付録 1 - 1 パソコン本体について」を確認してください。

■ **機器への強い衝撃や外圧について**
- あらかじめ、「付録 1 - 1 - 機器への強い衝撃や外圧について」を確認してください。

1 ボタン

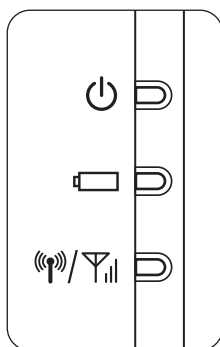
ボタンを使用すると簡単に操作ができます。操作するボタンを指でタップしてください。

	キーボードボタン	ボタンを1回タップすると、Tablet Keyboardを表示します。ボタンをダブルタップすると、Tablet Touch Padを表示します。 参照 P.43
	ホームボタン	ボタンを1回タップすると、「TOSHIBA(トウシバ) Media(メディア) Browser(ブラウザ)」を表示します。ボタンをダブルタップすると、「TOSHIBA(トウシバ) Flash(フラッシュ) Cards(カーズ)」を表示します。
	Windowsセキュリティタブレットボタン	ボタンをダブルタップすると、Ctrl+Alt+Delキーと同じ機能を持ち、［このコンピューターのロック］や［ユーザーの切り替え］などを選択する画面が表示されます。

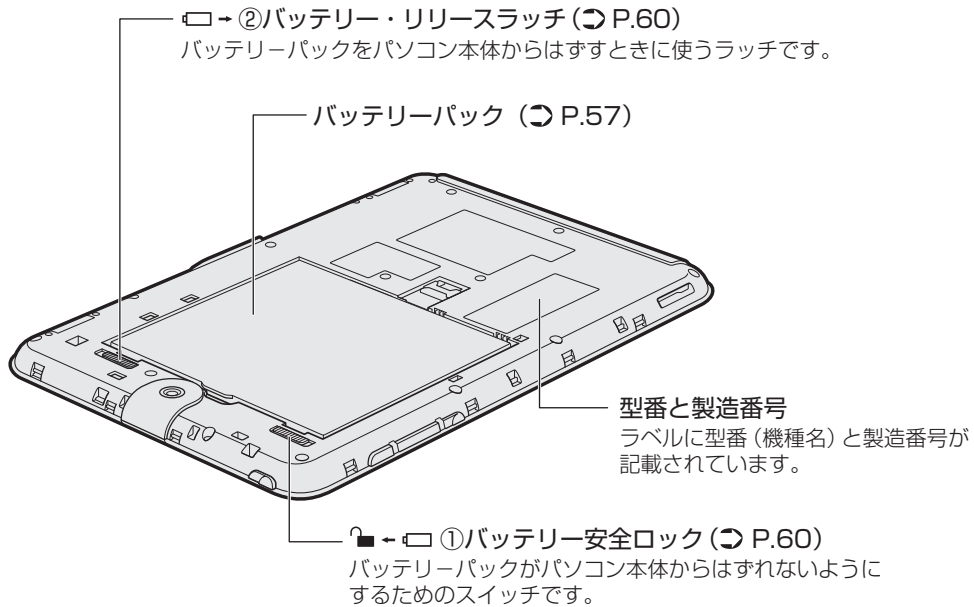
メモ

- 「TOSHIBA Media Browser」は、すべてのメディアフォーマットに対して再生、表示を保証しているものではありません。正しく再生、表示できない場合があります。

2 システムインジケーター

システムインジケーターは、点灯状態によって、本製品がどのような動作をしているのかを知ることができます。

	Power LED	電源の状態 参照 P.41
	DC IN/Battery LED	電源コード接続の状態やバッテリーの状態 参照 P.41、58
	ワイヤレスコミュニケーションLED	無線通信機能の状態 参照『オンラインマニュアル』

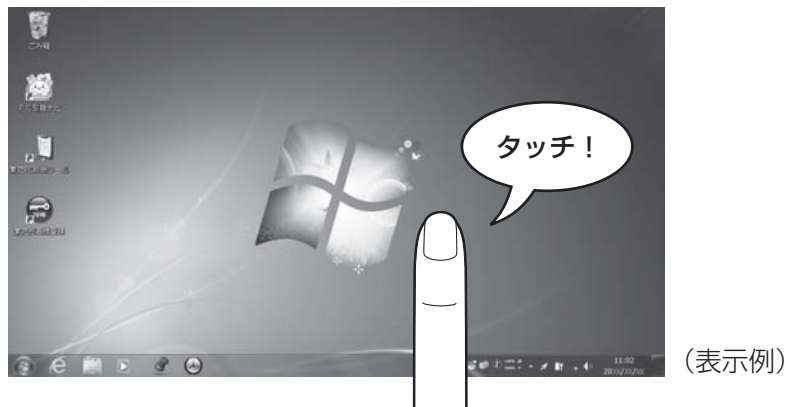
3 裏面（カバーを取りはずした状態）

本製品の裏面からカバーを取りはずした面は、次のようになっています。
カバーの取りはずし方法は、P.59を参照してください。

お願い Windowsのラベルについて

- 本製品の裏面からカバーを取りはずした面には、正規のWindowsであることを証明する、Microsoft®の「Certificate of Authenticity」というラベルが貼ってあります。はがしたり汚したりしないでください。

3 画面にタッチして操作する

本製品では、画面の表面を指でタッチすることによって、さまざまな操作を行うことができます。マウスやキーボードを使うことなく、画面を指でさわってアイコンを選択したり、画面をスクロールしたりします。
ここでは、指を使った基本的な操作を説明します。
なお、本書および『オンラインマニュアル』に記載している画面は、次のイラストのように横長に表示した場合（横置き）を例に説明します。

（表示例）

1 選択する（タップ）

アイコン、文字などを選択するには、目的のアイコンやウィンドウなどを1回軽くタッチします。この操作を「タップ」と呼びます。
アイコンなどを選択すると、色が変わります。

（表示例）

<タップする前>

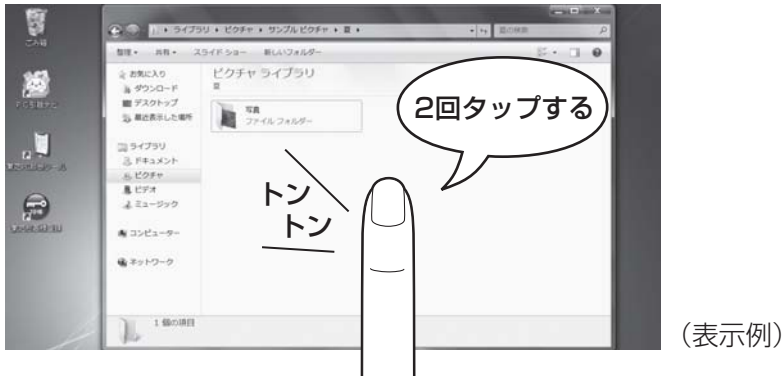
写真
ファイル フォルダー

<タップした後>

写真
ファイル フォルダー

❑ダブルタップ

ダブルタップすると、ファイルを開いたりアプリケーションを起動できます。
目的の位置を、すばやく2回タップします。

（表示例）

❑プレス アンド ホールド

プレス アンド ホールドすると、メニューが表示され、そこから行いたいことをタップして選択できます。①指を画面上の目的の位置におき、数秒そのままにします。

（表示例）

②指を置いている所に輪が表示されます。

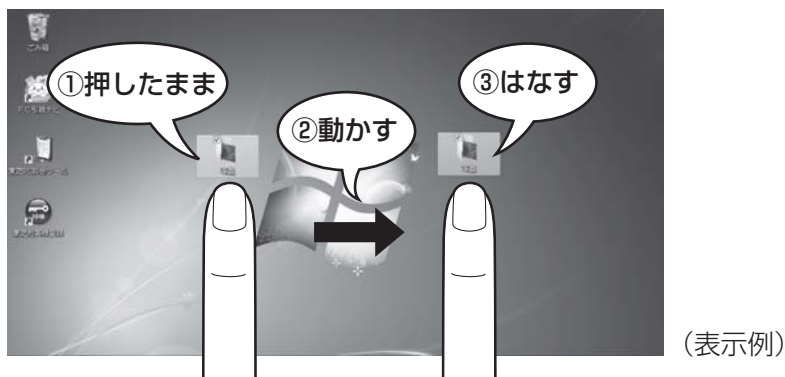
③指をはなすとメニューが表示されます。

（表示例）

④表示されたメニューから目的の操作をタップして実行できます。

❏ ドラッグ アンド ドロップする

ドラッグ アンド ドロップをすると、アイコンやウィンドウを移動したり、複数の文字やアイコンを選択したりできます。
アイコンやウィンドウを移動する場合は、目的のアイコンなどに合わせて、指を画面につけて①、そのまますべらせます②（ドラッグ）。アイコンなどが目的の位置に移動したら、指をはなします③（ドロップ）。

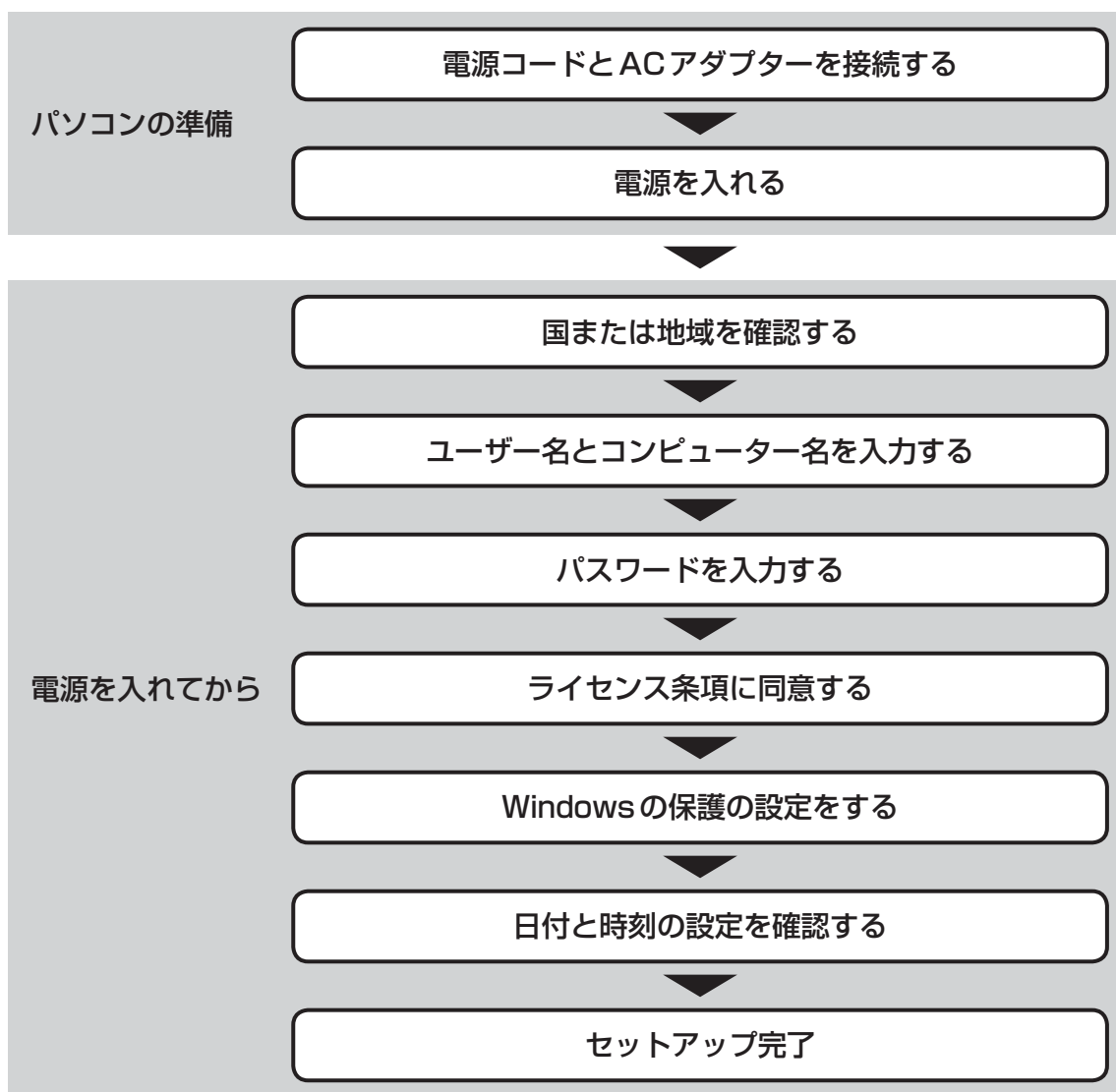
（表示例）

メモ

- ボールペンなどのペン先やつめで、指の代わりに操作することはできません。

4 Windows（ウィンドウズ）を使えるようにする

1 Windowsセットアップ

初めて電源を入れたときは、Windowsのセットアップを行います。
Windowsのセットアップは、パソコンを使えるようにするために必要な操作です。
作業を始める前に、付属の冊子『安心してお使いいただくために』を必ず読んでください。特に電源コードやACアダプターの取り扱いについて、注意事項を守ってください。

1 操作の流れ

お願い セットアップをするときの注意

■ 周辺機器は接続しないでください

- セットアップはACアダプターと電源コードのみを接続して行います。
  セットアップが完了するまでは、プリンター、マウスなどの周辺機器は接続しないでください。

参照 機器の取りはずし「3章 パソコンの使用環境を整えよう」

■ 途中で電源を切らないでください

- セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障や起動できない原因になり、修理が必要となることがあります。

■ 操作は時間をあけないでください

- セットアップ中に入力が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。
  しばらく操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。
  もう一度表示するには、画面をさわってください。
  画面をさわっても復帰せず、Power ⏻ LEDが点滅または消灯している場合は、電源スイッチを押してください。

■ 無線通信機能をONにしてください

- Windows セットアップを始める前にワイヤレスコミュニケーションLEDが点灯していることを確認してください。

2 電源コードとACアダプターを接続する

⚠警告

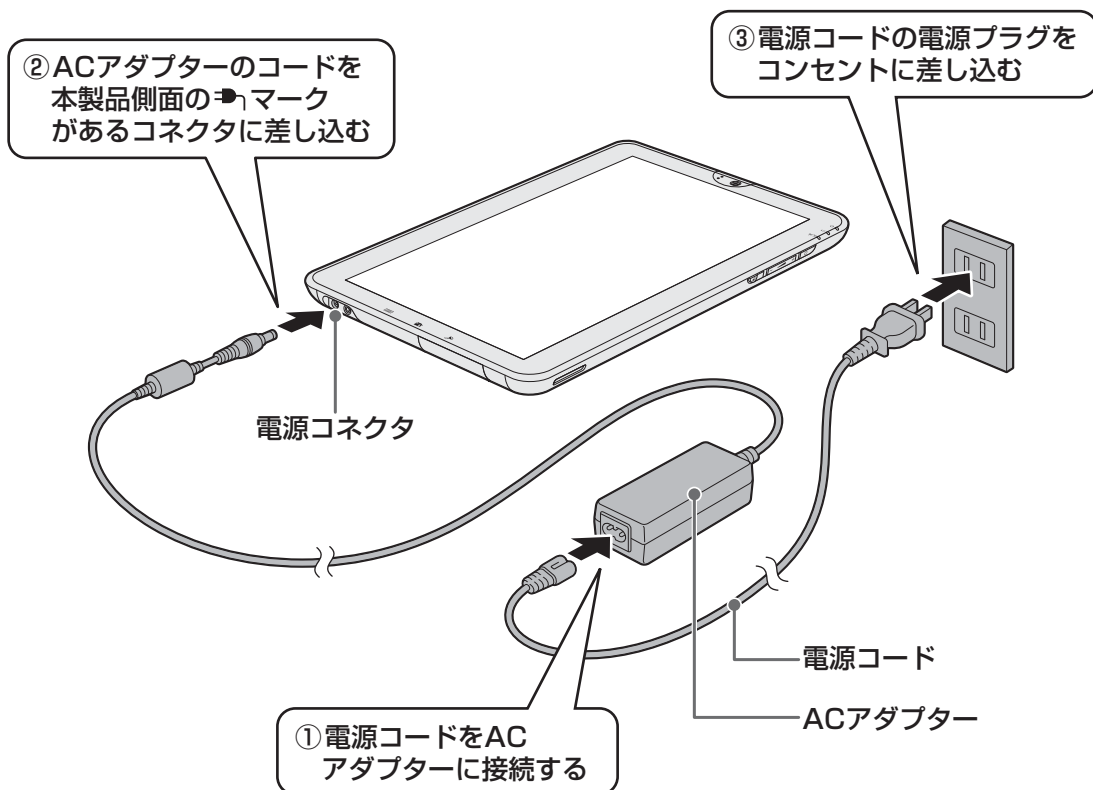
- **ACアダプターは本製品に付属のものを使用する**
  本製品付属以外のACアダプターを使用すると電圧や（＋）（－）の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- **パソコン本体にACアダプターを接続する場合、本書に記載してある順番を守って接続する**
  順番を守らないと、ACアダプターのDC出力プラグが帯電し、感電またはけがをする場合があります。
  また、ACアダプターのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

⚠注意

- **付属の電源コードは、本製品付属のACアダプター以外には使用しない**
  付属の電源コードは、本製品付属のACアダプター専用です。

お願い 電源コード、ACアダプターの取り扱いについて

- あらかじめ、「付録 1 - 2 電源コード、ACアダプターの取り扱いについて」を確認してください。

次の図の①→②→③の順で行ってください。

接続すると

DC IN/Battery LEDがオレンジ色（電源OFF時）に点灯し、バッテリーへの充電が自動的に始まります。DC IN/Battery LEDが白色（電源OFF時）に点灯したら、充電完了です。

参照 DC IN/Battery LED「3章 2 - 1 バッテリー充電量を確認する」

メモ

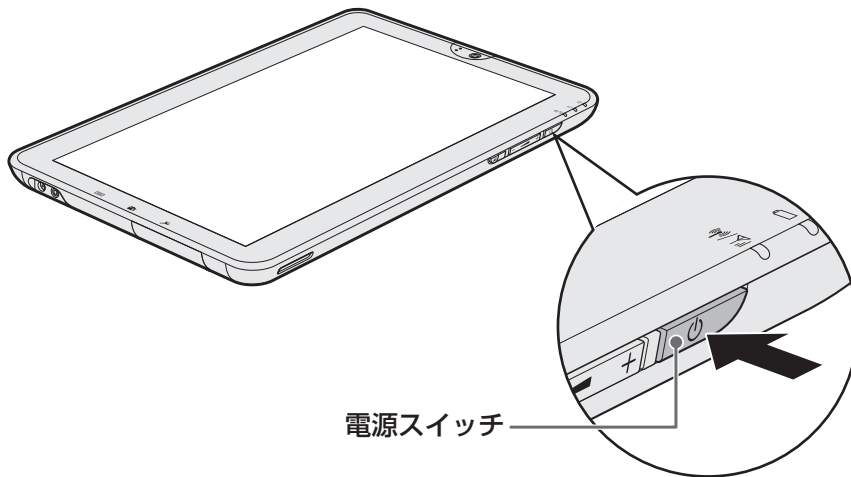
- バッテリー充電中でもパソコンを使用することができます。

参照 詳細について「3章 2 バッテリーについて」

3 電源を入れる

1 電源スイッチを押し、指をはなす

確実に電源スイッチを押してください。

Power ⏻ LEDが点灯することを確認してください。

これで本製品の準備は完了です。

続いてWindowsのセットアップに進みます。

4 Windowsのセットアップ

セットアップには約10〜20分かかります。

1 ［国または地域］欄に「日本」と表示されていることを確認し、［次へ］ボタンをタップする

（表示例）

ユーザー名とコンピューター名を入力する画面が表示されます。

次の手順の前に「ユーザー名」とは

ユーザー名は、Windowsを使用しているユーザーをパソコン側で識別するための名前です。

次の手順では、管理者ユーザーのユーザー名を登録します。
管理者ユーザーとは、ネットワークやコンピューターを管理する権限を持つユーザーのことです。複数のユーザーで1台のパソコンを使用する場合、管理者ユーザーは、ほかのユーザーに対して使用制限の設定も行えます。

管理者以外のユーザーは、Windowsのセットアップ後に登録できます。

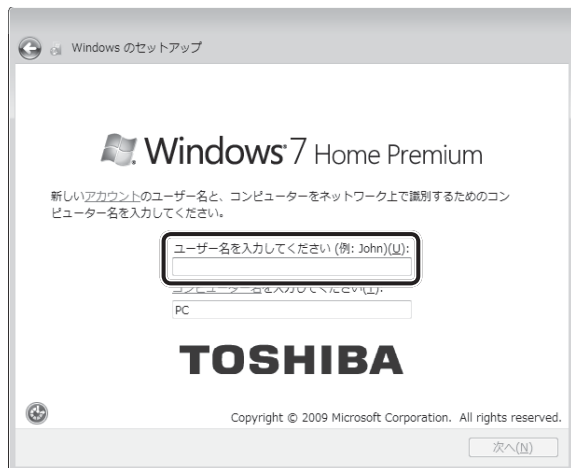
メモ　Windowsキーボード

Windowsセットアップで文字や記号を入力するときは、Windowsキーボードを使用します。画面にキーボードが表示されるので、入力したい文字や記号のキーをタップしてください。

Windowsキーボードは、Windowsセットアップの画面の上に表示されることがあります。その場合は、ドラッグ アンド ドロップして表示位置を動かすこともできます。表示位置を動かすときは、上図点線で囲まれた部分を指でさわってください。

2 ユーザー名を入力する

[ユーザー名を入力してください] と書いてある下の欄に、Windowsキーボードをタップして管理者ユーザーの名前を入力してください。**ユーザー名は、半角英数字で入力することをおすすめします。**

「|」(カーソル) が表示されている位置から文字の入力ができます。

(表示例)

画面に表示されているキーボードをタップして、ユーザー名を入力してください。

「personal」と入力するときは、キーボードで p e r s o n a l とタップします。

■ユーザー名に使えない文字

ユーザー名を入力するとき、次の文字を使用しないでください。

CON、PRN、AUX、NUL、COM1、COM2、COM3、COM4、COM5、COM6、COM7、COM8、COM9、LPT1、LPT2、LPT3、LPT4、LPT5、LPT6、LPT7、LPT8、LPT9、@

■キーをタップしても表示されないときは

キーをタップしても文字が表示されない場合は、入力欄に「|」(カーソル) が点滅しながら表示されていることを確認してください。表示されている位置から文字を入力できます。表示されていないときは、[ユーザー名を入力してください] の下の欄をタップしてください。

■入力を間違えたときは

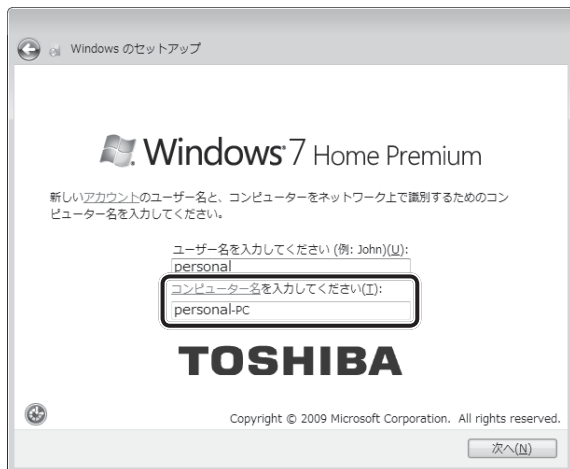
入力を間違えたときは次の操作で文字を削除して、もう一度入力しましょう。

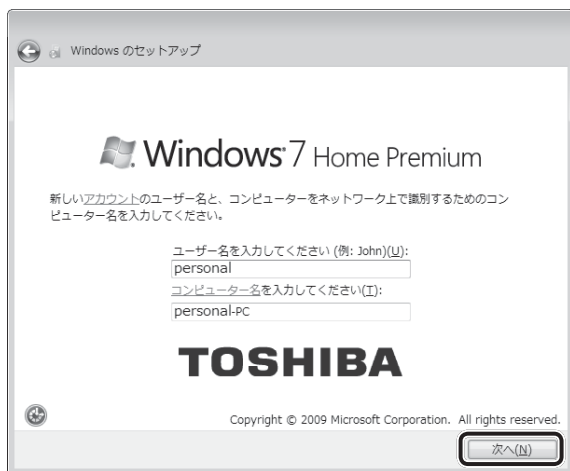
- カーソルの左側の文字を削除する .... Bksp キーをタップする
- カーソルの右側の文字を削除する .... Del キーをタップする

次の手順の前に「コンピューター名」とは

コンピューターに名前をつけるのは、使用するパソコンをほかのパソコンと区別するためです。ネットワークに接続する場合は、必ず設定してください。

3 コンピューター名を入力する

ユーザー名を入力すると自動的に入力されます。
変更する場合は、［コンピューター名を入力してください］と書いてある下の欄に、半角英数字で任意の文字列を入力してください。**半角英数字以外は使用しないでください**。また、同じネットワークに接続するコンピューターとは別の名前にしてください。

（表示例）

4 ［次へ］ボタンをタップする

（表示例）

パスワードを設定する画面が表示されます。

次の手順の前に「パスワード」(Windowsログオンパスワード)とは

パスワードとは、それを入力しないと次のステップに進めないようにできる、特定の文字列です。
ここでは、Windowsを起動するときに入力しないと、Windowsを起動できないようにするためのパスワードを設定します。これを「Windowsログオンパスワード」と呼びます。

お願い

- パスワードを忘れると、Windowsを起動するためには、「リカバリー」という、購入時の状態に戻す処理をするしか、方法がなくなってしまいます。その場合、購入後にパソコンに保存したデータやアプリケーションなどはすべて消失するので、パスワードは忘れないようにしてください。

5 パスワードを入力する

[パスワードを入力してください]と書いてある下の欄に、Windowsログオンパスワードとして設定したい文字を入力してください。
Windowsログオンパスワードは半角英数字で127文字まで設定できますが、8文字以上で設定することを推奨します。英字の場合、大文字と小文字は区別されます。
Windowsログオンパスワードを入力しないでそのまま次の画面へ進むこともできますが、セキュリティ上、設定することを強くおすすめします。

入力した文字は「●●●●●」で表示されるため、画面を見て確認することはできません。入力し間違えても画面ではわからないので、気をつけて入力してください。

6 Windowsキーボードの Tab キーをタップする

［パスワードをもう一度入力してください］と書いてある下の欄にカーソルが移動し、Windowsキーボードが画面の上の方に移動します。

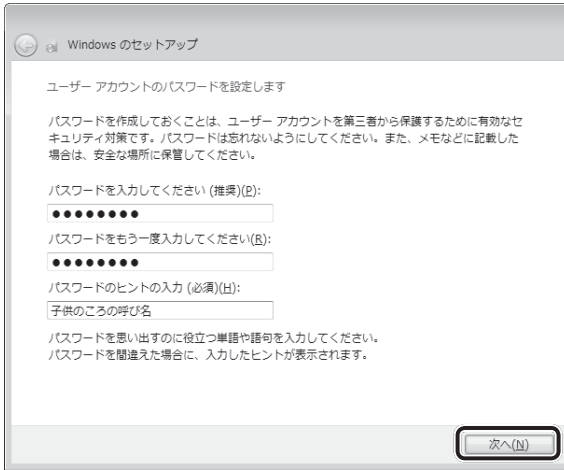
7 パスワードをもう一度入力する

手順 5 で入力したWindowsログオンパスワードを、もう一度入力してください。

次の手順の前に「パスワードのヒント」とは

設定したWindowsログオンパスワードを忘れてしまったときのために、あらかじめヒントを入力しておいて、パスワード入力画面で表示させることができます。

8 パスワードのヒントを入力する

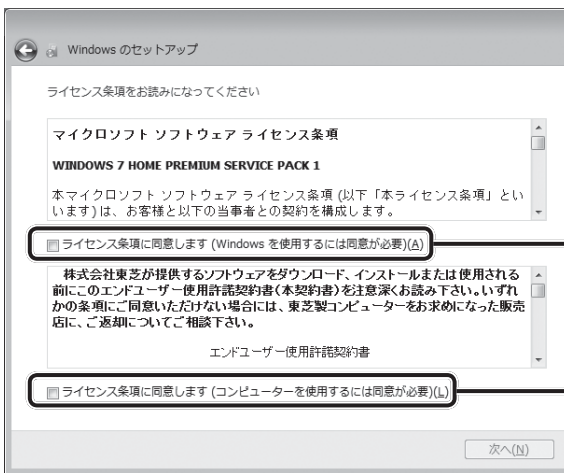
［パスワードのヒントの入力］と書いてある下の欄をタップして、それを読めば自分だけはパスワードを思い出せるようなヒントを入力してください。

9 ［次へ］ボタンをタップする

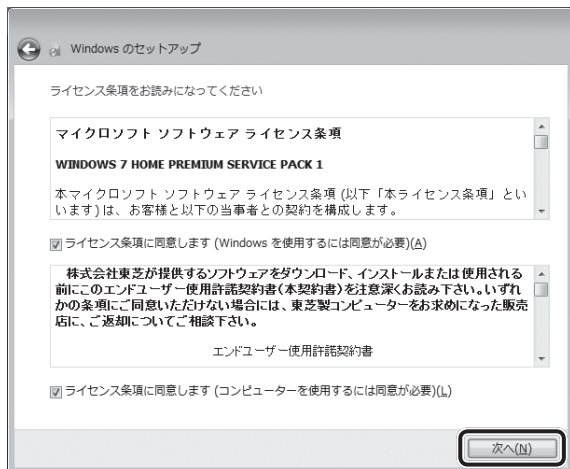
（表示例）

［ライセンス条項をお読みになってください］画面が表示されます。

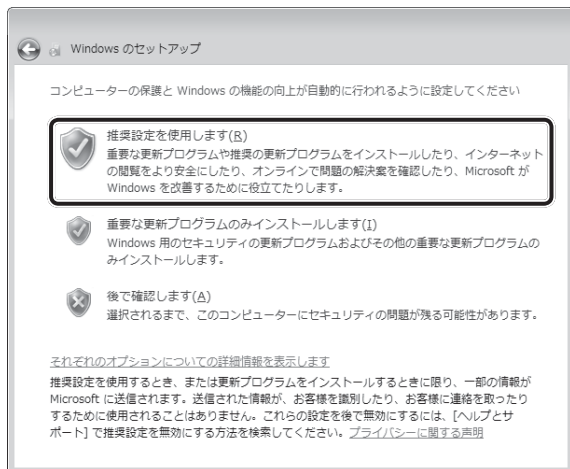
10 マイクロソフトと東芝のライセンス条項の内容を確認し、それぞれの［ライセンス条項に同意します］の左にある をタップする

ライセンス条項に同意しないと、セットアップを続行することはできず、Windowsやコンピューターを使用することはできません。
表示されている条項文の続きを表示するには、画面の右側にある ボタンをタップします。

（表示例）

をタップすると になります。

11 ［次へ］ボタンをタップする

（表示例）

［コンピューターの保護とWindowsの機能の向上が自動的に行われるように設定してください］画面が表示されます。

12 ［推奨設定を使用します］をタップする

［日付と時刻の設定を確認します］画面が表示されます。

13 日付と時刻を確認する

コンピューターの内蔵時計の日付と時刻が合っているかどうか、確認します。合っていない場合は、正しい内容に設定してください。

（表示例）

［タイムゾーン］は、欄の右にある をタップして、表示された地名から「大阪、札幌、東京」をタップしてください。

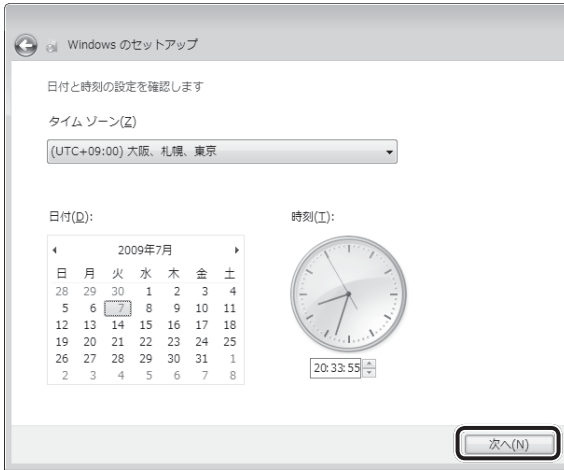
年・月の左右にある または をタップすると、月ごとに順に表示が切り替わります。
年・月を合わせてから、該当する日をタップしてください。

時刻表示の右にある または をタップすると、順に数字が切り替わります。
変更したい時／分／秒をタップしてから または をタップしてください。

メモ

- 日付と時刻が合っていないと、本製品に用意されているウイルスチェックソフトなどの使用期限のあるアプリケーションでは、アプリケーションの設定後から適用される使用期限などが、正しく計測されないことがあります。そのため、この時点で、日付と時刻が合っていることを必ず確認してください。
- 日付と時刻はWindowsセットアップ終了後に設定することもできます。

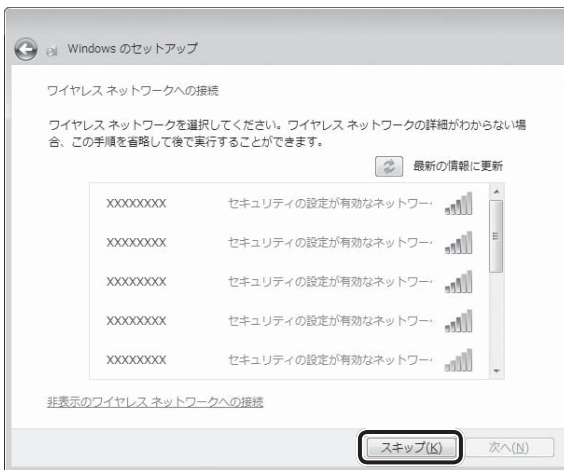
参照 日付と時刻の設定『Windows ヘルプとサポート』

14 ［次へ］ボタンをタップする

（表示例）

［ワイヤレスネットワークへの接続］画面が表示された場合は、手順 15 に進んでください。

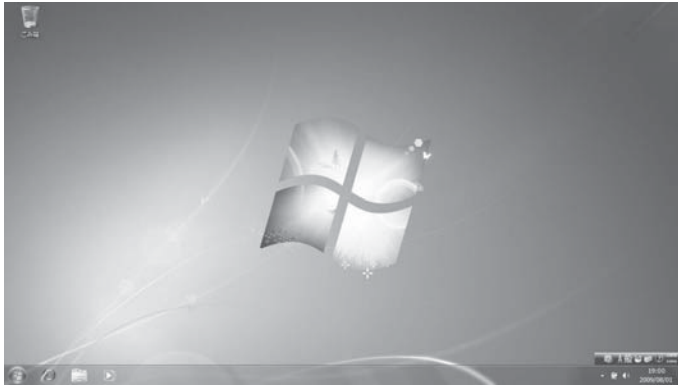
［Windowsで設定の最終処理を実行しています］画面が表示された場合は、手順 16 に進んでください。

15 無線LANの設定を省略するので、［スキップ］ボタンをタップする

無線LAN機能を使ったネットワークへの接続は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

16 ユーザーの設定が準備される

Windowsセットアップが終了すると、コンピューター内にユーザーの設定が用意され、作業を完了するためにシステムが再起動します。
しばらくお待ちください。

Windowsログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面にWindowsログオンパスワードを入力し、[⟵]をタップしてください。

Windowsが起動します。

（表示例）

「東芝サービスステーション」のメッセージが表示された場合は、次の「本項 5 「東芝サービスステーション」について」を確認してください。

メモ

- しばらく操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。
  もう一度表示するには、画面をさわってください。
  画面をさわっても復帰せず、Power ⏻ LEDが点滅または消灯している場合は、電源スイッチを押してください。
- パソコンを起動するときに流れるWindowsの起動音がまれに途切れる場合がありますが、故障ではありません。
- ［キーボードを押すと専用の仮想キーボード（TOSHIBA Tablet Keyboard）を表示します。］画面が表示された場合は、［OK］ボタンをタップしてください。

5 「東芝サービスステーション」について

「東芝サービスステーション」は、ソフトウェアのアップデートや重要なお知らせを自動的に提供するためのソフトウェアです。以降の説明をお読みのうえ、「東芝サービスステーション」を使用して、本製品を最新の状態に保つことを強くおすすめします。
このソフトウェアは本製品の識別情報などを当社のサーバーへ送信します。使用できるように設定する前に、詳しい内容を説明した使用許諾書が表示されますので、よくお読みください。

メモ

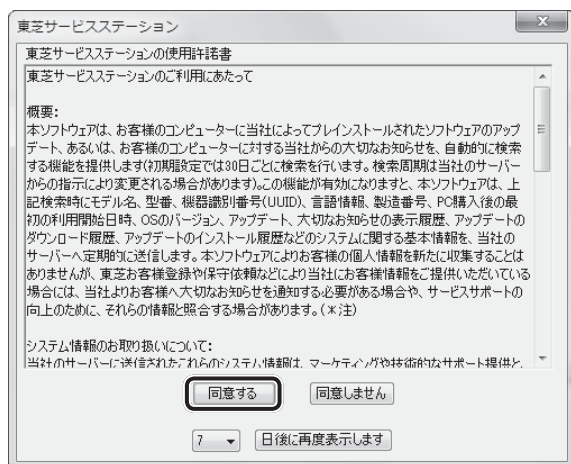
- 「東芝サービスステーション」を使用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。
- 「東芝サービスステーション」は、本製品に用意されているアプリケーション、ユーティリティ、ドライバーやBIOSのうち、一部についてアップデートをお知らせします。「あなたのdynabook.com」や「dynabook.com」の「よくある質問 FAQ」やウイルス・セキュリティ情報と「Microsoft Update」などをあわせてご利用ください。

設定方法

「東芝サービスステーション」を使用できるように設定する方法は、次のとおりです。

1 パソコン起動後、しばらくしてから通知領域に表示されるメッセージを確認する

メッセージ「東芝から重要なお知らせがあります。ココを確認してください。」が表示されるので、このメッセージをタップしてください。
または、[スタート] ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［サービスステーション］をタップしてください。
初めて起動したときは、本ソフトウェアに関する詳しい説明（使用許諾書）が表示されます。

2 内容を確認し、［同意する］ボタンをタップする

（表示例）

使用許諾書に同意すると、以降は、ソフトウェアのアップデートや当社からのお知らせを検出する機能が、パソコンを起動すると自動的に動作します。

1章 パソコンの準備

使用方法

■ソフトウェアのアップデートがある場合

本製品に用意されているアプリケーション、ユーティリティ、ドライバーやBIOSにアップデートがあることを検知すると、メッセージ「X件の新しいソフトウェアのアップデート（更新）があります。」が表示されます。
メッセージを確認し、画面の指示に従って操作してください。

■本製品に対するお知らせがある場合

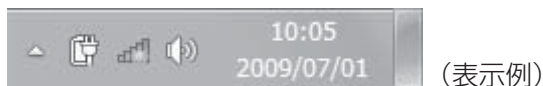
本製品に対する当社からのお知らせが準備されたことを検出すると、メッセージ「X件の新しいお知らせがあります。」が表示されます。
メッセージを確認し、画面の指示に従って操作してください。

手動で、ソフトウェアのアップデート、またはお知らせを確認したい場合は、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［サービスステーション］をタップし、［すべてのアップデートを確認］をタップしてください。

6 Windowsセットアップが終了したら

日付と時刻の確認

日付と時刻は、画面右下の［通知領域］に表示されています。
正しく設定されているかどうか確認してください。

（表示例）

正しく設定されていない場合は、『Windows ヘルプとサポート』を確認して設定してください。

Windows 7でわからない操作があったとき

Windows 7の使いかたについては、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をタップして、『Windows ヘルプとサポート』を参照してください。
Windows 7の最新情報は次のホームページから確認できます。

- Windows 7について
  URL：http://www.microsoft.com/japan/windows/default.mspx

Windowsを最新の状態にする

「Windows Update」で更新プログラムをインストールしてください。

参照 「Windows Update」について『Windows ヘルプとサポート』

リカバリーメディアの作成

リカバリーメディアを作成しておくことをおすすめします。
リカバリーメディアとは、システムやアプリケーションをご購入時の状態に復元（リカバリー）するためのものです。

参照 リカバリーメディアについて『オンラインマニュアル』

なお、リカバリーメディアを使って実際にリカバリーを行うときは、操作の流れをよくご確認ください。

参照 リカバリーについて「4章 買ったときの状態に戻すには」

バックアップをとる

作成したファイルを誤って削除してしまったり、突然のパソコンのトラブルによって保存したファイルが使えなくなってしまうことがあります。
このような場合に備えて、あらかじめファイルをDVD-RやUSBフラッシュメモリなどの記録メディアにコピーしておくことをバックアップといいます。
一度なくしたデータを復旧することはできません。
万が一のために、必ず定期的にバックアップをとりましょう。
＊CD／DVDにバックアップをとる場合、外付けのCD／DVDドライブ（東芝製オプション）が必要です。

参照 バックアップについて『オンラインマニュアル』

2 電源を切る

パソコンを使い終わったとき、電源を完全に切る「シャットダウン」を行ってください。間違った操作を行うと、故障したり大切なデータを失ったりするおそれがあります。中断するときは、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する「スリープ」があります。

参照 スリープについて『オンラインマニュアル』

⚠警告

- 電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  - ・無線機能は、「TOSHIBA Flash Cards」の［ワイヤレス］のカードで無効にすることができます。［ワイヤレス］のカードをタップして、表示されたアイコン群から をタップし、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  - ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  - ・電源を切った状態でもパソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効に（解除）してください。

お願い **電源を切る前に**

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- データの書き込み中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

電源を切るには、次のように操作してください。

1 ［スタート］ボタンをタップする

2 ［シャットダウン］をタップする

Windowsを終了したあと、パソコンの電源が自動的に切れます。
パソコン本体の電源が切れると、Power ⏻ LEDが消灯します。

お願い　電源を切ったあとは

- パソコン本体に接続している機器（周辺機器）の電源は、パソコン本体の電源を切ったあとに切ってください。
- パソコン本体や周辺機器の電源は、切ったあとすぐに入れないでください。故障の原因となります。

■再起動

Windowsを終了したあと、すぐにもう一度起動することを「再起動」といいます。パソコンの設定を変えたときやパソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。
再起動するには、次のように操作してください。

①［スタート］ボタン（ ）をタップし、 をタップする
②表示されたメニューから［再起動］をタップする

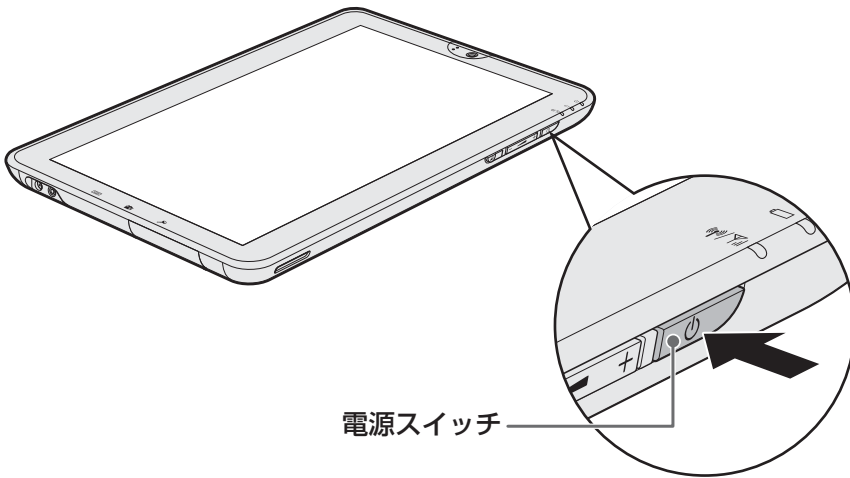
3 電源を入れる

Windowsセットアップを終えたあとは、次の手順で電源を入れます。

お願い 電源を入れる前に

- 各スロットに記録メディアなどをセットしている場合は取り出してください。
- プリンターなどの周辺機器を接続している場合は、パソコン本体より先に周辺機器の電源を入れてください。

1 電源スイッチを押し、指をはなす

確実に電源スイッチを押してください。
Power ⏻ LEDが白色に点灯することを確認してください。

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。画面上のキーボードでパスワードを入力して ENT をタップしてください。

Windowsが起動し、デスクトップ画面が表示されます。

メモ

- 画面右に無線LANの接続状態を示すウィンドウが表示されることがあります。

参照 「東芝無線LANインジケーター」について『オンラインマニュアル』

電源に関する表示

電源の状態はシステムインジケーターの点灯状態で確認することができます。
電源に関係あるインジケーターとそれぞれの意味は次のとおりです。

	状態	パソコン本体の状態
DC IN/Battery LED	白色の点灯	ACアダプターを接続している（バッテリー充電完了）
	オレンジ色の点灯	ACアダプターを接続している（バッテリー充電中）
	オレンジ色の点滅	充電が必要
	消灯	ACアダプターを接続していない
Power LED	白色の点灯	電源ON
	白色の点滅	スリープ中
	消灯	電源OFF、休止状態

＊ 電源に関するトラブルについては、「5章 2 Q&A集」を参照してください。

メモ

- しばらく操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。
  もう一度表示するには、画面をさわってください。
  画面をさわっても復帰せず、Power LEDが点滅または消灯している場合は、電源スイッチを押してください。

5 本製品を使ってみよう

画面に便利なソフトウェアを表示させてタッチするだけで、マウスや外付けキーボードが無くても自由に操作することができます。

画面の「TOSHIBA Desk Band(トウシバ デスク バンド)」に表示されているアイコンをタップすると、アイコンに割り付けられている機能が使えます。

1 TOSHIBA Desk Band

「TOSHIBA Desk Band」に表示されている各アイコンについて説明します。

Adaptive Display

Adaptive Display機能は、環境光の変化にあわせて、本体液晶ディスプレイの輝度、および、色を自動的に調整します。「TOSHIBA Desk Band」の［Adaptive Display］アイコンをタップすることでオン／オフを切り替えることができます。

Audio Enhancer

Audio Enhancer機能は、デジタル処理による音質劣化なしに、より音源に近い音を再現します。「TOSHIBA Desk Band」の［Audio Enhancer］アイコンをタップすることでオン・オフを切り替えることができます。Audio Enhancer機能は、44100Hz～48000Hzのサンプルレートをサポートします。Audio Enhancer機能は本体内蔵のスピーカーでの補正を行います。外付けのスピーカーやヘッドホンでは効果がありません。

ウェブカメラアプリケーション

「東芝ウェブカメラアプリケーション」を起動します。Webカメラについては、『オンラインマニュアル』を参照してください。

Flash Cards

さまざまな機能を簡単な操作で実行できる、「TOSHIBA Flash Cards」を起動します。画面の輝度調節や無線通信機能のON／OFF、電源プランの変更などを、画面に表示されたカードから操作できます。「TOSHIBA Flash Cards」の詳しい内容については、『オンラインマニュアル』を参照してください。

App Swicher

起動しているアプリケーションの一覧を表示します。各アプリケーションを切り替えたり、終了させたりすることができます。

Zoom

画面を部分的に拡大表示できます。［Zoom］アイコンをタップしてから拡大したい箇所をタップしてください。拡大表示されます。拡大表示している部分以外をタップすると、Zoom機能は終了します。

Tablet Touch Pad

タッチパッドを画面に表示します。画面上をタッチパッドのように使用することができます。

Tablet Keyboard

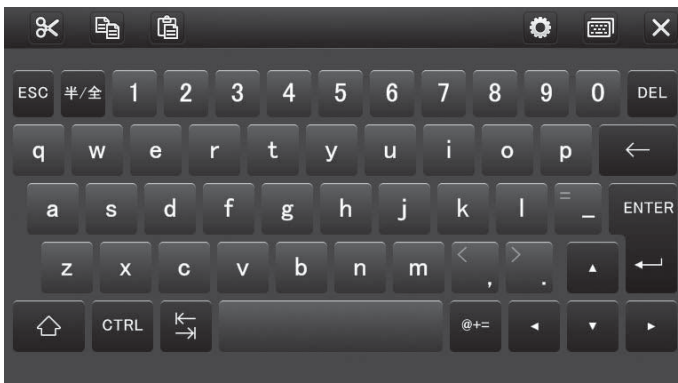
キーボードを画面に表示します。「本節- 2 Tablet Keyboard」を参照してください。

メモ

- 画面を縦長に表示した場合（縦置き）、「TOSHIBA Desk Band」のアイコンは左から最大4個までしか表示されません。
- 「TOSHIBA Desk Band」を再表示させる場合は、通知領域をプレス アンド ホールドして表示されたメニューから［ツールバー］をタップし、表示されたメニューから［TOSHIBA Desk Band］をタップして、チェックを付けてください。この画面で、［TOSHIBA Desk Band］のチェックをはずすと、「TOSHIBA Desk Band」が画面に表示されなくなります。

2 Tablet Keyboard

「TOSHIBA Desk Band」で［Tablet Keyboard］アイコン（ ）をタップすると、画面にキーボードが表示されます。

この画面上のキーボードをタップして、実際のキーボードと同じように文字を入力することができます。

表示されるキーボードには、用途に合わせていろいろなパターンがあります。

右上の アイコンをタップすると、別の種類のキーボードを表示します。

メモ

- Keyboardでは、すべてのキー入力（ショートカット）をカバーすることはできません。

6 マニュアルで見るパソコンの使いかた

Windowsのセットアップが終わったら、いろいろな機能を楽しみましょう。
本製品には、本書をはじめとした冊子のマニュアルと、パソコンの画面で見る電子マニュアルがあります。知りたいことに合わせて、各マニュアルをお読みください。
本製品の操作説明は、パソコンの画面に表示させて見るマニュアル（電子マニュアル）にもあります。紙の冊子マニュアルをできるだけ少なくすることによって、少しでも環境保全に役立てるよう、エコ活動を推進しております。

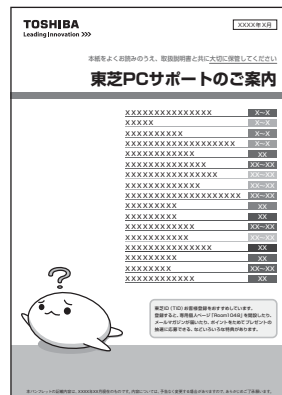
1 冊子マニュアル

ここでは、本製品に付属している次のマニュアルについて説明します。

取扱説明書（本書）

パソコンを使い始めるときにお読みください。
Windowsセットアップ方法やパソコンの基本操作について説明しています。インターネットや周辺機器を利用するにあたって知っておきたいことや、バッテリーについて、トラブルが起きたときの基本的なQ&A、リカバリー（購入時の状態に戻す）方法の説明があります。

東芝PCサポートのご案内

修理や訪問サポートの窓口など、サポート体制について紹介しています。

2 パソコンの画面で見るマニュアル

ここでは、パソコンの画面で見るマニュアル（電子マニュアル）について紹介します。

オンラインマニュアル

パソコン本体に関するさまざまな操作から活用方法、周辺機器やバッテリーの充電方法などを説明しています。
デスクトップ上の［オンラインマニュアル］アイコン（ ）をダブルタップして起動します。

2章

インターネットを快適に利用するために
ーウイルスチェック／セキュリティ対策ー

インターネットを使っていると、コンピューターウイルスなどによって知らない間にトラブルが襲いかかってくるおそれがあります。
この章では、インターネットを使うための準備と、より安全にインターネットを利用する方法について説明します。

1 インターネットを使うには

ホームページを閲覧するには、インターネットに接続するための設定が必要です。

準備

■プロバイダーに加入する

プロバイダーとはインターネット接続の窓口となる会社のことです。会社によって使用料金やサービス内容が異なります。使用できるまでに数日かかる場合があります。

■ブラウザソフトを用意する

本製品に用意されている「Microsoft Internet Explorer」でホームページの閲覧ができます。

■ウイルスチェックソフトを設定する

インターネットやメールに添付されたファイルなどでコンピューターウイルスに感染する場合があります。コンピューターウイルスに感染してしまうと、パソコンのデータが破壊され、パソコンが使用できなくなることがありますので、インターネット接続やメールのやり取りをする前に、ウイルスチェックソフトの設定をしてください。

参照 ウイルスチェックソフトについて「本章 2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

メモ

- 本製品に用意されているウイルスチェックソフトの設定をする前に、日付と時刻が合っていることを必ず確認してください。日付と時刻が合っていないと、アプリケーションの設定後から適用される使用期限などが、正しく計測されないことがあります。
  日付と時刻はWindowsセットアップ終了後に設定することもできます。

  参照 日付と時刻の設定『Windows ヘルプとサポート』

使用するまでの流れ

無線LANに接続する

参照 無線LANで接続する『オンラインマニュアル』

アクセスポイントの接続先は、プロバイダーとの契約時に送られてきた説明書などを確認してください。

インターネットとメールの設定をする

インターネット接続の設定をするときは、プロバイダーとの契約時に送られてきた資料などを参照してください。
メールのやり取りをする場合は、メールソフトの設定も必要です。

参照 メールソフトの説明書、メールソフトのヘルプ

メールを使用するには、メールソフトでの設定が必要です。
メールソフトには、「Windows Liveメール」などがあります。

メモ

- Windows Liveメールの制限事項、メールの設定方法や送受信方法などの詳細は、「Windows Liveメール」のヘルプを参照してください。
- メールの送受信を行う前にウイルスチェックソフトを設定することをおすすめします。

  参照 ウイルスチェックソフトについて「本章 2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

設定完了

2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには
－ウイルス・インターネットセキュリティ－

本製品に用意されているウイルス・インターネットセキュリティ用のアプリケーションを紹介します。

お願い 使用するにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 3 ウイルスチェック・セキュリティ対策について」を確認してください。

役立つ操作集

アクション センターについて

「アクション センター」は、セキュリティの設定をしたり、Windows ファイアウォール、自動更新、ウイルスチェックソフトの状態をチェックしたりするなど、パソコンのセキュリティを向上させるお手伝いをします。

アクション センターはパソコンが危険にさらされている場合、通知領域に アイコンなどで警告します。
詳しくは、『Windows ヘルプとサポート』を確認してください。

1 コンピューターウイルス対策

コンピューターウイルスは、インターネットや、メールに添付されたファイルを介してパソコンに入り込んでしまうことがあります。
コンピューターウイルスに感染すると、次のようなことがおこる可能性があります。

- パソコンのデータが破壊され、パソコンを使用できなくなる
- インターネットを経由して、パソコンに残している個人情報にアクセスされる

コンピューターウイルスの感染や不正アクセスからパソコンを保護するため、初めてインターネットに接続したりメールを送受信する前に、ウイルスチェック機能があるソフトをインストールしてください。インストール後も、普段から定期的にコンピューターウイルスの検出を行うようにしてください。

本製品には、次のソフトが用意されています。

- **ウイルスバスター**
  ウイルスの発見や駆除、個人情報保護やネットワークセキュリティ対策ができるアプリケーションです。

参照 「本節 3 ウイルスバスターによるウイルス対策」

本製品に用意されている「ウイルスバスター」以外のソフトを使用する場合

本製品に用意されている「ウイルスバスター」以外のウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを使用する場合は、「ウイルスバスター」をパソコンからアンインストール（削除）してから、ほかのウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトをインストールしてください。
アンインストールは、「コントロールパネル」の「プログラムのアンインストール」で行います。

2 インターネットをより安全に楽しむために

インターネットを利用すると、画面上でいろいろな情報を見ることができて大変便利です。しかしその反面、インターネット上には次のような有害なものが存在します。

・コンピューターウイルス
　パソコンに侵入し、パソコン内に保存してあるデータを破壊するなどの悪さを行います。
・スパイウェア
　パソコンに侵入し、パソコン内の情報（氏名やパスワード、ホームページの閲覧履歴など）を第三者に流出します。
・有害サイト
　お子様に適さないサイトや、ウイルスに感染しているサイトなど、ユーザーに悪影響を与えるおそれがあるサイトです。

ウイルスチェックソフト、スパイウェア対策ソフト、有害サイト閲覧制限ソフトを上手に使って、快適にインターネットを楽しみましょう。

メモ

- 本製品にはユーザーの年齢やホームページのカテゴリによって表示するサイトを制限できる「i-フィルター6.0」が用意されています。

参照 「本章 3 有害サイトの閲覧（アクセス）を制限する」

3 ウイルスバスターによるウイルス対策

本製品に用意されている「ウイルスバスター」には、次のような機能があります。

- コンピューターウイルスを検出／除去する
- フィッシング詐欺への対策をする
- スパイウェアを検出して処理する
- 個人情報の漏えいを防止する
- 迷惑メールや詐欺メールを判定して処理する
- 有害サイトへのアクセスを制限する

など

詳しくは、ヘルプを確認してください。

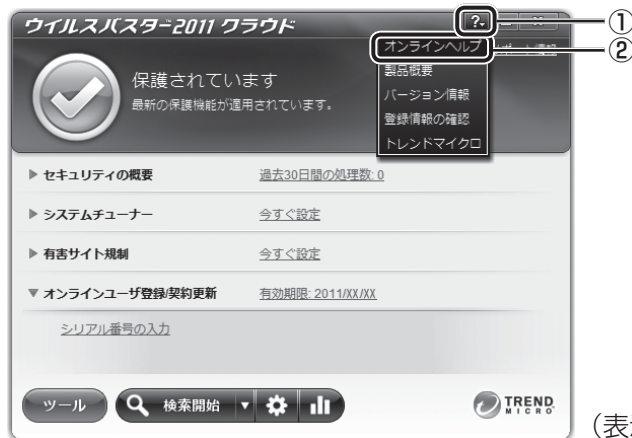
ヘルプの起動

ヘルプを見るためには、インターネットに接続する必要があります。

1 通知領域の［ウイルスバスター］アイコン（ ）をダブルタップする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタップしてください。

［ウイルスバスター］画面が表示されます。

2 ［ウイルスバスター］画面で［ヘルプ］ボタン（ ）をタップし①、表示されたメニューから［オンラインヘルプ］をタップする②

（表示例）

［トレンドマイクロ オンラインヘルプ］画面が表示されます。

［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［ウイルスバスター2011 クラウド］→［ウイルスバスター2011 クラウド ヘルプ］を順にタップしても表示されます。

参照 ウイルスバスターのお問い合わせ先「5章 5 - 2 アプリケーションのお問い合わせ先」

3 有害サイトの閲覧（アクセス）を制限する

インターネットに接続すると、世界中のいろいろなホームページを見ることができます。ニュースを読む、買い物をする、調べ物をするなど便利な使いかたもできますが、なかには有害なホームページもあります。
有害なホームページへのアクセスを遮断する「i-フィルター6.0」を使用することをおすすめします。

1 i-フィルター6.0

本製品には、フィルタリング機能をもつアプリケーションとして「i-フィルター6.0」が用意されています。「i-フィルター6.0」は、ユーザーの年齢やホームページのカテゴリによってアクセスを制限し、有害なホームページは表示しないように設定することができます。

お願い 使用期限について

- あらかじめ、「付録 1 - 4 「i-フィルター6.0」について」を確認してください。

インストール方法

＊Pro搭載モデルのみ

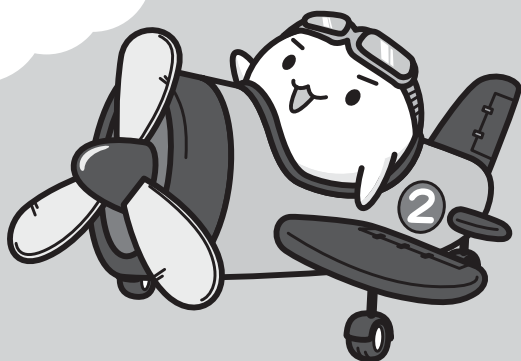
「i-フィルター6.0」は、購入時の状態ではインストールされていません。
次の手順でインストールしてください。

1. **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をタップする**
2. **［セットアップ画面へ］をタップする**
3. **［アプリケーション］タブをタップする**
4. **画面左側の［i-フィルター6.0］をタップし、［「i-フィルター6.0」のセットアップ］をタップする**
5. **画面の指示に従ってインストールする**
   ［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをタップしてください。

「i-フィルター6.0」の使いかたについては、「i-フィルター6.0」のヘルプをご確認ください。
「i-フィルター6.0」のヘルプを見るには、インターネットに接続し、ダウンロードする必要があります。[スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [i-フィルター6.0] → [サポート情報] → [「i-フィルター6.0」マニュアルダウンロードページへ] をタップし、以降は画面の指示に従って操作してください。

3章

パソコンの使用環境を整えよう

この章では、接続できる周辺機器、充電や充電量の確認などバッテリーの取り扱い方法などについて説明しています。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を追加することができます。
周辺機器は、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぎます。
本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。
周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。
周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

お願い **周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって**

- あらかじめ、「付録 1 - 5 - パソコン本体への機器の取り付け／取りはずしについて」を確認してください。

次の周辺機器が使用できます。

- テレビ
- 外部ディスプレイ
- ヘッドセット
- ヘッドホン
- USB対応機器（USB対応マウス、USB対応プリンター、USBフラッシュメモリなど）
- ポート拡張クレードル

参照 『オンラインマニュアル』
『ポート拡張クレードル取扱説明書』（別売り）

2 バッテリーについて

パソコンは、バッテリーパックを取り付けた状態で使用してください。
本製品を初めて使用するときは、ACアダプターを接続してバッテリーパックを充電してください。
バッテリーパックを充電すると、バッテリー駆動（ACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。
バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。
指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意をお願いします。
『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠危険

- **バッテリーパックは、本製品に付属の製品を使用する**
  寿命などで交換する場合は、『＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』に記載されている、指定の東芝製バッテリーをお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発熱、発火、破裂のおそれがあります。

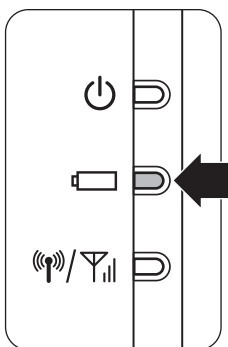
お願い　バッテリーを使用するにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 5 - パソコン本体への機器の取り付け／取りはずしについて」、「付録 1 - 6 バッテリーについて」を確認してください。

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 システムインジケーターで確認する

ACアダプターを使用している場合、DC IN/Battery LEDが点灯します。

DC IN/Battery LEDは次の状態を示しています。

白色	充電完了
オレンジ色	充電中
オレンジ色の点滅	充電が必要 参照 バッテリーの充電について『オンラインマニュアル』
消灯	・ACアダプターが接続されていない ・バッテリーが装着されていない 上記のいずれにも当てはまらない場合は、バッテリー異常の可能性があります。東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

2 通知領域の［バッテリー］アイコンで確認する

通知領域の［バッテリー］アイコン（ ）をタップすると、バッテリー充電量や電源プランなどが表示されます。

2 バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。
バッテリーパックの取り付け／取りはずしのときには、「スリープ」にするのではなく、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

⚠注 意

- **カバーをはずすときは、指先などを傷つけないように注意する**
  カバーの縁で指先を切ったり、つめをはがしたりするおそれがあります。

お願い　バッテリーパックの交換にあたって

- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

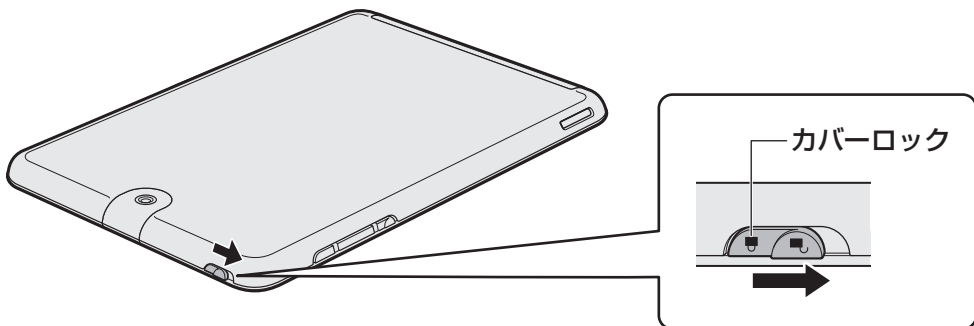
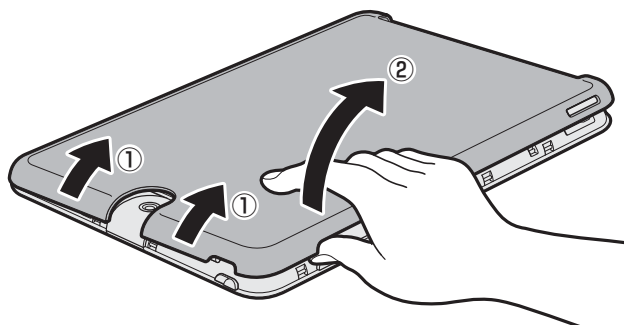
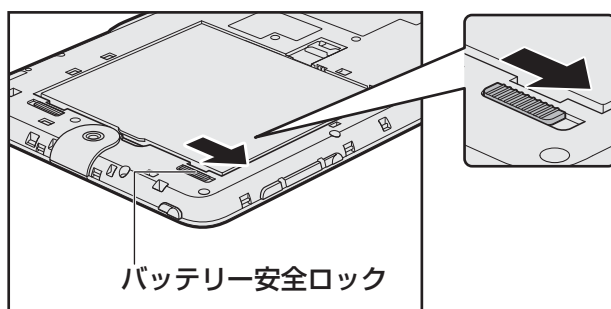
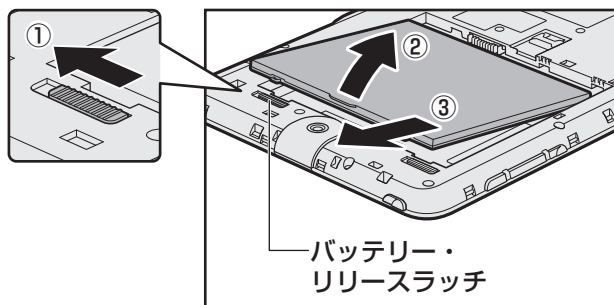
1 取りはずし／取り付け

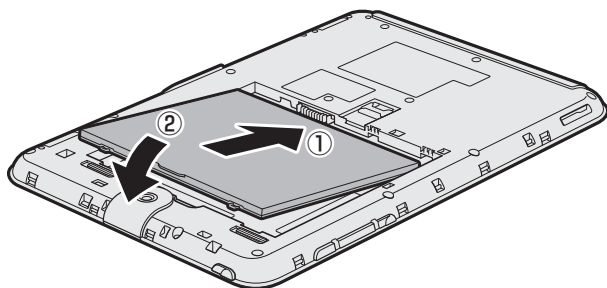
1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

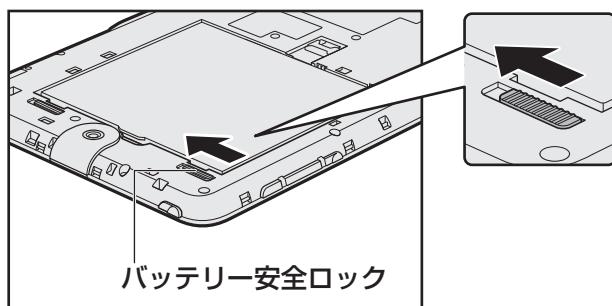
参照 電源の切りかた「1章 4 - 2 電源を切る」

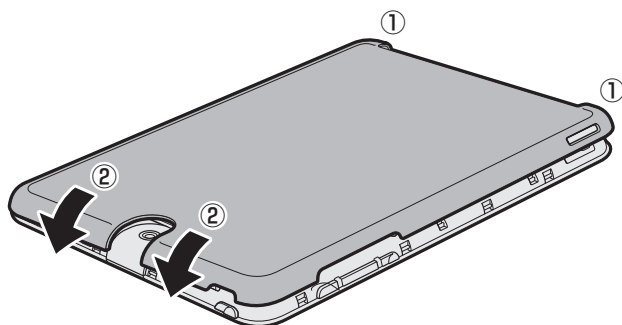
2 パソコン本体に接続されているACアダプターとケーブル類をはずす

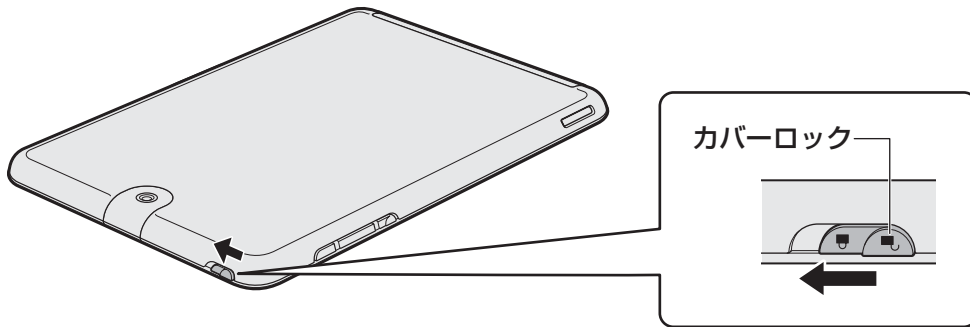
3 パソコン本体を裏返す

4 カバーロックを、矢印の方向へ完全にスライドする

5 本体とカバーのすき間に指を入れて、Webカメラの両脇部分を持ち上げて①、静かにカバーを開ける②

6 バッテリー安全ロックを、「カチッ」と音がするまで矢印の方向にスライドする

7 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリーパックを持ち上げて②、取りはずす③

8 交換するバッテリーパックを、斜めに挿入し①、静かに差し込む②

新しいあるいは充電したバッテリーパックを図のように差し込みます。
バッテリー・リリースラッチが自動的にスライドして、「カチッ」という音がするまで注意して差し込んでください。

9 バッテリー安全ロックを、「カチッ」と音がするまで矢印の方向にスライドする

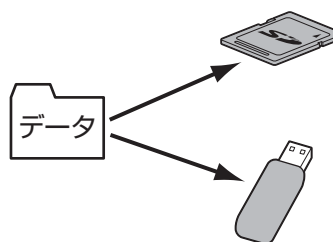
バッテリーパックがはずれないように、バッテリー安全ロックは必ず行ってください。

10 カバーを取り付ける

① カバーを本体の下側にかける
② カバーを倒す
③ 本体とカバーの間にすき間がある場合、本体とカバーを、「パチッ」と音がするまで指ではさむ

11 カバーロックを、矢印の方向へ完全にスライドする

4章

買ったときの状態に戻すには
ーリカバリーー

この章では、パソコンの動作がおかしくなり、いろいろなトラブル解消方法では解決できないときに行う「リカバリー」について説明しています。リカバリーを行うことでシステムやアプリケーションを購入時の状態に復元できます。作成したデータなどが消去されますので、よく読んでから行ってください。

1 バックアップをとる（Windowsが起動しないとき）

保存したファイルやフォルダーを誤って削除してしまったり、パソコンのトラブルなどによってファイルが使えなくなってしまうことがあります。
このような場合に備えて、あらかじめファイルをSDメモリカードやUSBフラッシュメモリなどの記録メディアにコピーしておくことをバックアップといいます。
＊CD／DVDにバックアップをとる場合、外付けのCD／DVDドライブ（東芝製オプション）が必要です。

大切なデータは、こまめにバックアップをとってください。
バックアップの説明や操作方法の詳細は、『オンラインマニュアル』を参照してください。
ここでは、Windowsが起動しない状態でのバックアップ方法について説明します。

お願い　バックアップをとるにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 バックアップについて」を参照してください。

1 東芝ファイルレスキューについて

＊Home搭載モデルのみ

「東芝ファイルレスキュー」を使うと、Windowsが起動しなくても、データのバックアップ=救助（レスキュー）をすることができます。
Windowsが起動せず、リカバリーをしなくてはならない場合などは、「東芝ファイルレスキュー」を使って、あらかじめデータを救助しておいてください。

お願い データを救助するにあたって

- パソコンを人に譲るときなどに、内蔵フラッシュメモリの内容をすべて消去すると「システム回復オプション」は消去され、「東芝ファイルレスキュー」は使用できなくなります。再度使用したい場合は、リカバリーを行ってください。
- その他の注意事項については、あらかじめ、「付録 1 - 8 「東芝ファイルレスキュー」について」を参照してください。

データの救助用に使用できる記録メディア

「東芝ファイルレスキュー」では、記録メディアにデータの救助を行います。使用できる記録メディアは、次のとおりです。

- USB接続型などの外付けハードディスクドライブ
- USBフラッシュメモリ
- CD／DVD（外付けのCD／DVDドライブ（東芝製オプション）を使用）

1 データを救助する

1 USBハブなどを使い、外付けキーボードを接続する

2 救助するデータの保存先となる記録メディアをパソコンにセットする

参照 記録メディアのセット『オンラインマニュアル』

外付けのCD／DVDドライブ（別売り）を使用する場合は、あらかじめUSBハブなどを使い、CD／DVDドライブを接続し、CD／DVDメディアをセットしてください。

参照 『CD／DVDドライブに付属の説明書』

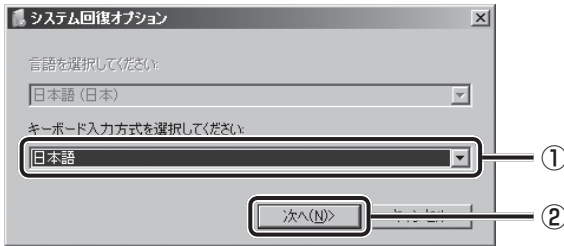
3 「詳細ブート オプション」を起動する

①電源を入れる
②TOSHIBAロゴが表示されたら、メニューが表示されるまで F8 キーを数回押す
各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENT をタップしてください。そのあとすぐに、 F8 キーを再び数回押してください。

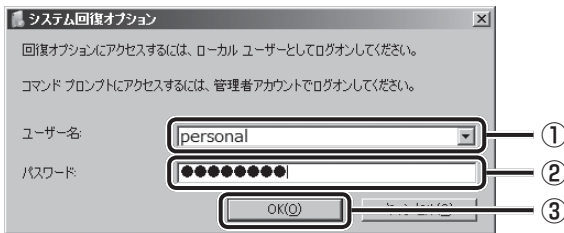
「詳細ブート オプション」が表示されます。

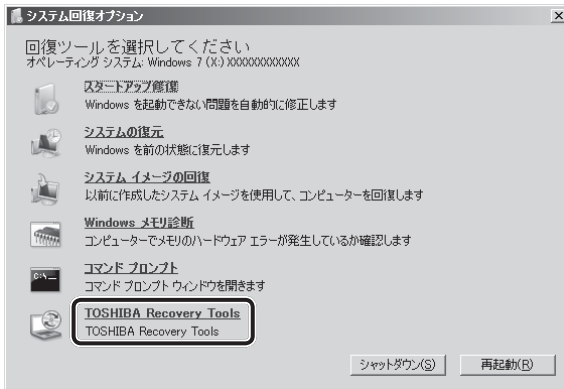
4 ［コンピューターの修復］を選択し、ENTERキーを押す

キーボードの選択画面が表示されます

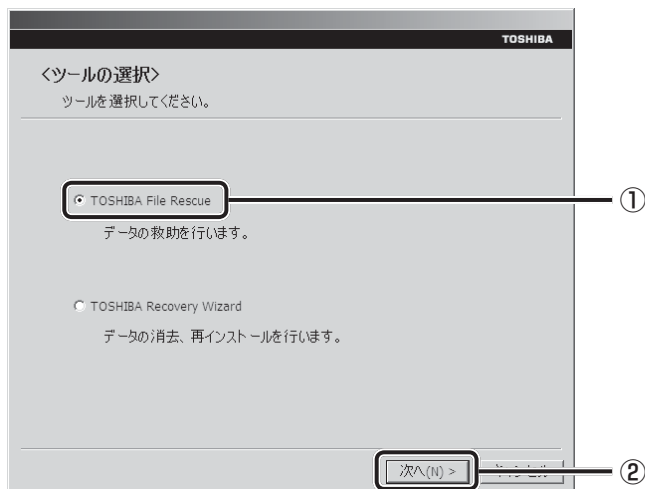
5 ［日本語］を選択し①、［次へ］ボタンをタップする②

ログオン画面が表示されます。

6 ユーザー名を選択し①、Windowsログオンパスワードを入力し②、［OK］ボタンをタップする③

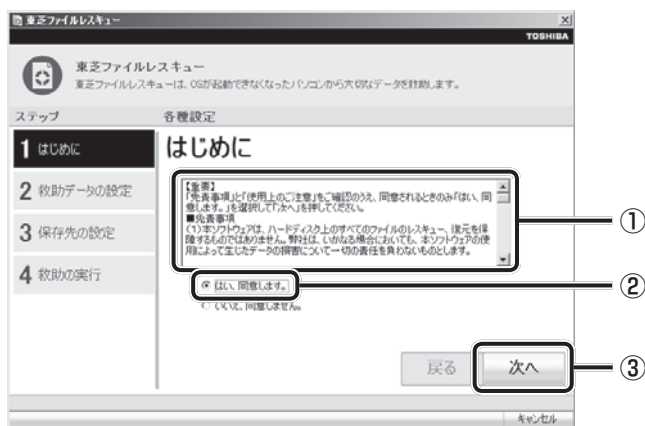
管理者ユーザーのアカウントでログオンすることをおすすめします。

回復ツールの選択画面が表示されます。

7 ［TOSHIBA Recovery Tools］をタップする

（表示例）

ツールの選択画面が表示されます。

8 ［TOSHIBA File Rescue］を選択し①、［次へ］ボタンをタップする②

「東芝ファイルレスキュー」が起動します。

9 「免責事項」と「使用上のご注意」を確認し①、同意される場合は、［はい、同意します。］を選択し②、［次へ］ボタンをタップする③

同意しないと、操作を先に進めることはできません。

10 救助するデータを確認し①、［次へ］ボタンをタップする②

- 何もしないで［次へ］ボタンをタップすると、すべてのユーザーのユーザーデータを救助します。
  ユーザーデータとは、［コンピューター］- 内蔵フラッシュメモリ（画面上では、「ハードディスク ドライブ」などと表示されますが、以降「内蔵フラッシュメモリ」と表記します。）（C:）-［ユーザー］内の各ユーザー名のフォルダーに保存されるファイルやフォルダーです。「ユーザー名」フォルダーにはアドレス帳やお気に入りなどのデータが保存されています。ユーザーデータの内容は、［救助データの一覧］①で確認してください。
- 救助するファイルやフォルダーを、任意に指定したい場合は、「役立つ操作集」を参照してください。

役立つ操作集

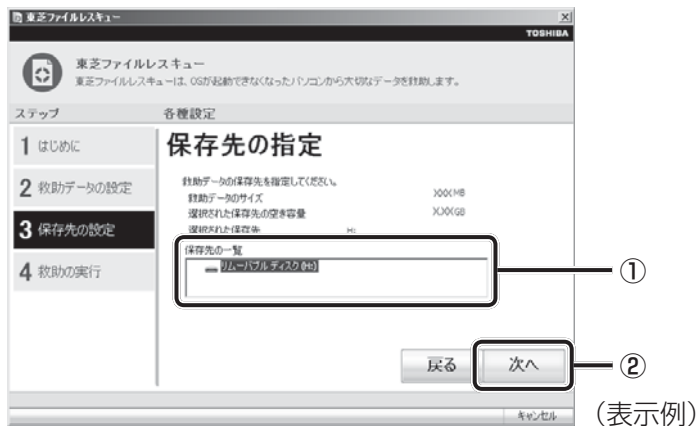
「救助するファイルやフォルダーを任意に指定したい場合」

救助するファイルやフォルダーを任意に指定するには、次のように操作してください。

① 手順 10 で、［任意のファイルやフォルダーを手動で指定する］にチェックを付け、［次へ］ボタンをタップする
② 救助したいファイルやフォルダーにチェックを付け、［次へ］ボタンをタップする

以降は、手順 11 から操作してください。

11 救助データの保存先を指定し①、［次へ］ボタンをタップする②

（表示例）

外付けハードディスクドライブまたはUSBフラッシュメモリの容量が足りない場合や、記録メディアを何もセットしていない場合などは、赤い字でメッセージが表示されます。
メッセージに従って、適切な記録メディアを選択してください。
救助データの確認画面が表示されます。

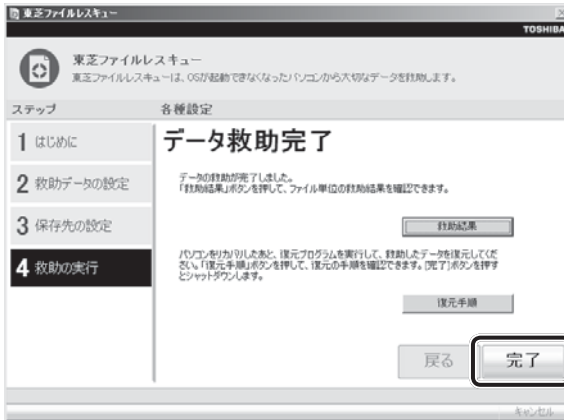
12 救助するデータと保存先を確認し①、［実行］ボタンをタップする②

データの救助を開始するメッセージが表示されます。

13 ［OK］ボタンをタップする

データの救助の進捗状況を示す画面が表示されます。救助には、長時間かかることがあります。必ず電源コードを接続した状態でご利用ください。
救助中は保存先の記録メディアを取りはずさないでください。
データの救助が完了すると、完了画面が表示されます。

14 必要に応じて［救助結果］ボタンや［復元手順］ボタンをタップし、最後に［完了］ボタンをタップする

- ［救助結果］ボタンをタップすると、ファイル単位で救助の結果を表示します。
  このとき、ファイルが壊れているなどの理由で救助できなかったデータがあると、そのファイル名の左に赤い「×」が表示されます。
- ［復元手順］ボタンをタップすると、救助データを復元する手順を表示します。

［完了］ボタンをタップすると、電源が切れます。
引き続き、リカバリーを行う場合は「本章 2」以降を参照してください。
標準ユーザーのアカウントでデータを復元するときは管理者ユーザーの認証が必要になりますので、リカバリーをしたあとは、必ずWindowsセットアップでWindowsログオンパスワードを設定してください。

参照 Windowsセットアップ「1章 4 - 1 - 4 Windowsのセットアップ」

2 救助したデータを復元する

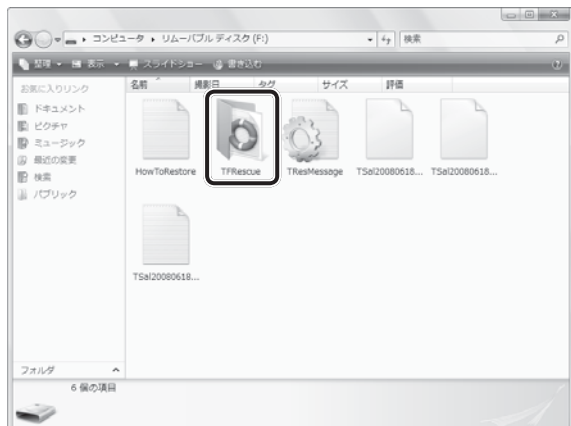
「東芝ファイルレスキュー」で救助したデータの復元方法は、次のとおりです。

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する

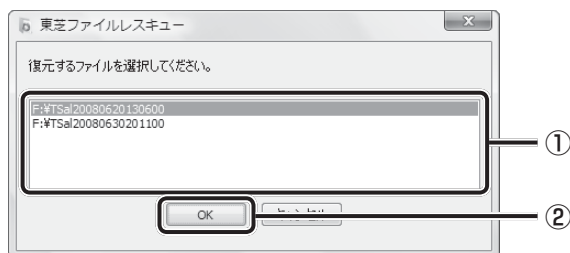
このとき、データを復元したいユーザーアカウントでログオンしてください。

2 データを保存した記録メディアをパソコンにセットする

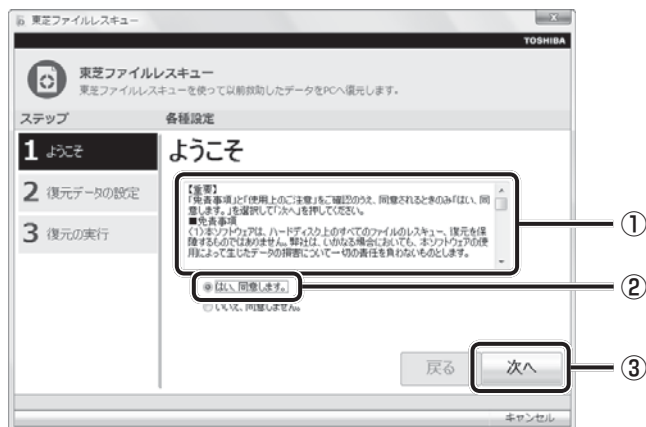
3 ［スタート］ボタン（ ）→［コンピューター］をタップし、記録メディアのドライブのアイコンをダブルタップする

4 「TFRescue」ファイルをダブルタップする

標準ユーザーのアカウントで復元プログラムを実行するときは、管理者ユーザーの認証が必要です。
セットした記録メディアに、救助したファイルが複数存在する場合は、手順 5 へ進んでください。
救助したファイルが1つの場合は、手順 6 へ進んでください。

5 復元するファイルを選択し①、［OK］ボタンをタップする②

ファイルの名称は、「Tsal」のあとが、年号／月日／時分秒を示す数字となっています。これは、救助を行った日時ですので、よく確認して復元したいファイルを選択してください。

［ようこそ］画面が表示されます。

6 「免責事項」と「使用上のご注意」を確認し①、同意される場合は、［はい、同意します。］を選択し②、［次へ］ボタンをタップする③

同意しないと、操作を先に進めることはできません。

復元データを指定する画面が表示されます。

7 復元したいユーザーデータを選択し①、［次へ］ボタンをタップする②

復元データの確認画面が表示されます。

8 復元するデータを確認し①、［実行］ボタンをタップする②

メッセージが表示されます。

9 ［OK］ボタンをタップする

データ復元の進捗状況を示す画面が表示されます。
復元が完了すると、データ復元完了の画面が表示されます。

10 必要に応じて［復元結果］ボタンをタップし、最後に［完了］ボタンをタップする

［復元結果］ボタンをタップすると、ファイル単位で復元結果を表示します。
パソコンの内蔵フラッシュメモリ内のどこに復元されたかを確認することができます。

メモ　復元データ

- 復元データと同じファイルが復元先にある場合、復元データのファイル名の先頭に「_（アンダーバー）」が付きます。
- ユーザーデータ以外の任意のファイルやフォルダーを救助して復元した場合、次の場所に保存されます。
  - ・救助時に内蔵フラッシュメモリ（C:）に保存されていたデータ
    ：「C:¥ユーザー¥［ユーザー名のフォルダー］¥C」の中
  - ・救助時に内蔵フラッシュメモリ（D:）に保存されていたデータ
    ：「C:¥ユーザー¥［ユーザー名のフォルダー］¥D」の中

2 リカバリーとは

リカバリー（再セットアップ）とは、お客様が作成したデータや、購入後にインストールしたアプリケーション、現在の設定などをすべて削除し、もう一度ご購入時の状態に復元する作業です。内蔵フラッシュメモリ内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windowsログオンパスワードなど）も購入時の状態に戻る、つまり何も設定していない状態になります。

一度リカバリーを始めると、途中で中止したり、パソコンの電源を切ることができません。
リカバリーには時間がかかりますので、時間の余裕をもって行ってください。
内蔵フラッシュメモリからのリカバリーには、約2〜2.5時間かかります。リカバリーメディアからのリカバリーは、さらに1時間程度長くかかります。

次のような場合で、どうしても改善する方法がないときにリカバリーをしてください。

- パソコンの動作が非常に遅くなった
- 周辺機器が使えなくなった
- 内蔵フラッシュメモリにあるシステムファイルを削除してしまった
- コンピューターウイルスやスパイウェアなどに感染し、駆除できない*[1]
- パソコンの調子がおかしく、いろいろ試したが解消できない
- 東芝PC あんしんサポートに相談した結果、「リカバリーが必要」と診断された

＊1 ウイルスチェックソフトが正常に起動できない場合など、状態によってはウイルスチェックができない場合があります。

お願い

- 市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、リカバリーができなくなることがあります。

メモ

- リカバリーは、ユーザー権限にかかわらず、誰でも実行できます。誤ってほかの人にリカバリーを実行されないよう、ユーザーパスワードを設定しておくことをおすすめします。

参照 ユーザーパスワード『オンラインマニュアル』

- 購入時にプレインストールされていたアプリケーションやドライバーを誤って削除してしまった場合は、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をタップして、再度インストールすることをおすすめします。

参照 「本章 5 プレインストールのアプリケーションを再インストールする」

それでも解消できない場合にリカバリーを行ってください。

1 リカバリーをする前に確認すること

パソコンの動作がおかしいと感じたとき、次の方法を実行してみてください。リカバリーをしなくても、状態が改善される場合があります。次の方法をすべて試してみても状態が改善されない場合に、リカバリーを実行してください。

ウイルスチェックソフトで、ウイルス感染のチェックを実行する

ウイルスチェックソフトを使って、ウイルスに感染していないかどうかを確認してください。ウイルスが検出されたら、ウイルスチェックソフトで駆除できます。その際、ウイルス定義ファイル（パターンファイル）は、最新のものに更新しておいてください。
場合によっては、ウイルスチェックソフトで駆除できないウイルスもあります。そのときは、リカバリーを実行してください。

参照 ウイルスチェックソフト「2章 2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

セーフ モードで起動できるか実行してみる

Windowsが起動できないときは、次のように実行してみてください。
本機能を使用するには、市販の外付けキーボードが必要です。あらかじめキーボードを用意してから実行してください。
外付けキーボードの接続方法は、『キーボードに付属の説明書』を参照してください。

1. **外付けキーボードを接続する**
2. **電源を入れる**
3. **TOSHIBAロゴが表示されたら、メニューが表示されるまで F8 キーを数回押す**

   各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENT をタップしてください。そのあとすぐに、F8 キーを再び数回押してください。
4. **メニューが表示されたら、［セーフモード］を選択し、ENTER キーを押す**

最低限の機能でWindowsを起動させることができます。これで起動できた場合は、リカバリーをする前に東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

■「システム回復オプション」で調べる

「システム回復オプション」とは、Windowsが正常に起動しなくなった場合に、問題を解決して起動できるようにする方法が集まったものです。次の手順で実行してみてください。

①「本項 - セーフモードで起動できるか実行してみる」の手順 **4** で［コンピューターの修復］を選択し、ENTERキーを押す

＊このとき［前回正常起動時の構成（詳細）］を選択すると、直前の正常に起動したときの状態でWindowsを起動できます。

キーボードの選択画面が表示されます。

②［日本語］を選択し、［次へ］ボタンをタップする

ログオン画面が表示されます。

③ユーザー名を選択し、Windowsログオンパスワードを入力する

④［OK］ボタンをタップする

「システム回復オプション」が起動します。各項目の内容は、次のとおりです。

- **スタートアップ修復**
  システムファイルの不足や破損など、Windowsの正常な起動を妨げる可能性のある問題を解決し、正常に起動できるようにします。
- **システムの復元**
  システムファイルを正常に機能していた日時の状態に復元することができます。
- **システム イメージの回復**
  以前に作成したシステム イメージを使用して、コンピューターを回復します。システム イメージの詳細は、『Windows ヘルプとサポート』を参照してください。
- **Windows メモリ診断**
  メモリが正常に機能しているかどうかを確認します。
- **コマンド プロンプト**
  コマンドプロンプトに切り替えます。
- **TOSHIBA Recovery Tools、またはTOSHIBA Recovery Wizard**
  「東芝ファイルレスキュー」（東芝ファイルレスキュー搭載モデルのみ）と、リカバリー（再セットアップ）のメニューを表示します。

⑤使いたいメニュー名をタップする

この後の操作は、メニューによって異なります。表示された画面の指示に従って操作してください。

周辺機器をすべて取りはずし、再度確認する

USB対応機器など、購入後に追加で増設した機器が障害の原因となっている場合があります。それらを取りはずしてから、再起動して、動作を確認してみてください。また、電源関連のトラブルの場合は、バッテリーをいったん取りはずし、再度取り付けてから起動し直してみてください。

参照 機器の取りはずし「3章 パソコンの使用環境を整えよう」
『オンラインマニュアル』

ほかのトラブル解消方法を探す

パソコンの調子がおかしいと思ったときは、「5章 1 トラブルを解消するまでの流れ」、「5章 2 Q&A集」を確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。
それでも解消できないときに、リカバリーをしてください。

システムの復元で以前の状態に復元する

「システムの復元」は、パソコンに問題が発生したときに、個人用のデータを失わずにパソコンを以前の状態に復元するための機能です。
詳しくは、『Windows ヘルプとサポート』を参照してください。

2 リカバリー（再セットアップ）の流れ

リカバリーをする場合は、次のような流れで作業を行ってください。

バックアップをとる
参照 「本章 1 バックアップをとる」『オンラインマニュアル』

▼

リカバリー（画面の指示に従い、Windowsセットアップまで行います）

リカバリー（再セットアップ）
参照 「本章 3 リカバリー＝再セットアップをする」

▼

Windowsのセットアップ
参照 「1章 4 - 1 - 4 Windowsのセットアップ」

▼

リカバリー後、必要に応じて行ってください。

周辺機器の接続
参照 「3章 パソコンの使用環境を整えよう」『オンラインマニュアル』『各機器に付属の説明書』

▼

インターネットやメールの設定
参照 「2章 1 インターネットを使うには」『オンラインマニュアル』

▼

ウイルス対策ソフトの設定と更新
参照 「2章 2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

▼

Windows Update
参照 『Windows ヘルプとサポート』

▼

データの復元
参照 「本章 4 - 2 バックアップしておいたデータを復元する」

3 リカバリーをはじめる前にしておくこと

リカバリーをはじめる前に、次の準備と確認を行ってください。

準備するもの

- 『取扱説明書』（本書）
- 巻末のリカバリーチェックシートをコピーしたもの
- リカバリーメディア（あらかじめ作成してあるリカバリーメディアからリカバリーする場合）

＊ 本製品でDVDのリカバリーメディアを使用する場合、外付けのDVDドライブ（東芝製オプション）が必要です。

必要なデータのバックアップをとる

リカバリーをすると、購入後に作成したデータやインストールしたアプリケーションなど、内蔵フラッシュメモリに保存していた内容は削除されて、設定が初期化されます。次のようなデータは削除されますので、可能な場合は、記録メディア（CD／DVDやUSBフラッシュメモリなど）にバックアップをとってください。

＊ 本製品でCD／DVDにバックアップをとる場合、外付けのCD／DVDドライブ（東芝製オプション）が必要です。

- ［ドキュメント］（または［マイ ドキュメント］）、［ピクチャー］（または［マイ ピクチャー］）などのデータ
- 購入後にデスクトップに保存したデータ
- Microsoft Internet Explorerの［お気に入り］のデータ
- メール送受信データ
- メールアドレス帳
- プレインストールされているアプリケーションのデータやファイル
- 購入後にインストールしたアプリケーションのデータ
- 購入後に作成したフォルダーとファイル

また、リカバリー後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。

ただし、内蔵フラッシュメモリをフォーマットしたり、システムファイルを削除した場合は、バックアップをとることができません。また、リカバリーを行っても、内蔵フラッシュメモリに保存されていたデータは復元できません。

参照 メール送受信データ、メールアドレス帳のバックアップについて
『メールソフトに付属の説明書』
その他のデータのバックアップについて
『オンラインマニュアル』

■システムが起動しない場合

「東芝ファイルレスキュー」を使って、データのバックアップができる場合があります。

参照 東芝ファイルレスキュー「本章 1 - 1 東芝ファイルレスキューについて」

アプリケーションのセットアップ用記録メディアを確認する

購入後に追加でインストールしたアプリケーション、プリンターなどの周辺機器のドライバーは、リカバリー後に再度インストールする必要があります。これらをインストールするための記録メディア（CDなど）が、お手元にあることを確認してください。
また、アプリケーションによっては、ID番号などが必要です。あらかじめ確認してください。

各種設定を確認する

インターネットやLANの設定、Windowsログオン時のアカウント名などの設定項目を、メモなどに控えておいてください。ウイルスチェックソフトなど、有料で購入した認証キーなどがセットアップ時に必要なアプリケーションは、それらの番号を控えておいてください。確認方法は各アプリケーションのヘルプやお問い合わせ先にご確認ください。

音量を調節する

リカバリー後、Windows セットアップが終了するまで音量の調節はできません。あらかじめ、音量ボタン（ － または ＋ ）で音量を調節してください。［音量ミキサー］画面で［ミュート］ボタン（ ）をタップし、本体のスピーカーやヘッドホンの音量をミュート（消音）にしている場合は、もう一度［音量ミキサー］画面で［ミュート］ボタン（ ）をタップして元に戻しておいてください。

参照 音量の調節方法『オンラインマニュアル』

無線通信機能がONであるか確認する

無線通信機能がONであることを確認してください。
ONになっていない場合は、「TOSHIBA Flash Cards」の［ワイヤレス］のカードで、無線通信機能をONにしてください。

参照 「TOSHIBA Flash Cards」について『オンラインマニュアル』

周辺機器を取りはずす

プリンター、マウスなどの周辺機器は取りはずしてください。このとき、パソコン本体の電源を切ってから行ってください。

参照 機器の取りはずし「3章 パソコンの使用環境を整えよう」
『オンラインマニュアル』

3　リカバリー＝再セットアップをする

本製品をリカバリーする方法について説明します。
リカバリーは、ユーザー権限にかかわらず、誰でも実行できます。

1　いくつかあるリカバリー方法

リカバリーには、次の方法があります。

- 内蔵フラッシュメモリからリカバリーをする
- リカバリーメディアからリカバリーをする

通常は内蔵フラッシュメモリからリカバリーをしてください。
リカバリーメディアからのリカバリーは、内蔵フラッシュメモリのリカバリー（再セットアップ）ツール（システムを復元するためのもの）を消してしまい、内蔵フラッシュメモリからリカバリーができなかった場合などに行うことをおすすめします。
リカバリーメディアは、あらかじめ作成しておく必要があります。

参照　リカバリーメディアの作成『オンラインマニュアル』

リカバリーメニューについて

次のメニューのなかからリカバリー方法を選択することができます。あらかじめリカバリー方法を決めておくとスムーズに操作できます。

■ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）

内蔵フラッシュメモリをパソコンを購入したときの状態に戻し、購入時の状態に復元します。
購入後に作成したデータや設定などはすべて消去されます。

■パーティションサイズを変更せずに復元＜推奨＞

現状のパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。内蔵フラッシュメモリ（C:）に保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータはそのまま残ります。ただし、BIOS情報やコンピューターウイルスなどの影響でデータが壊れている場合、内蔵フラッシュメモリ（C:）以外の領域にあるデータが使えないことがあります。

■パーティションサイズを指定して復元

内蔵フラッシュメモリ（C:）のサイズを指定して復元します。内蔵フラッシュメモリ（C:）以外の内蔵フラッシュメモリのパーティションは消去されるため、リカバリー後、パーティションの再設定が必要です。購入後に作成したデータや設定などはすべて消去されます。

メモ

- どのメニューを選択しても、内蔵フラッシュメモリ（C:）には購入時と同じシステムが復元されます。

2 内蔵フラッシュメモリからリカバリーをする

メモ

- ドライブに記録メディアをセットしていない状態で実行してください。セットされていると、エラーになる場合があります。
- 内蔵フラッシュメモリのリカバリー（再セットアップ）ツール（システムを復元するためのもの）を削除した場合は、内蔵フラッシュメモリからのリカバリーはできません。
  その場合は、あらかじめ「TOSHIBA Recovery Media Creator」で作成したリカバリーメディアからリカバリーを行ってください。

ここでは、「パーティションサイズを変更せずに復元」する方法を例にして説明します。

1 パソコンの電源を切る

2 ACアダプターと電源コードを接続する

3 音量大ボタン（＋）を押しながら、電源スイッチを押し、表示されたメニューから［<HDD リカバリー>］をタップし、ホームボタン（ ）をタップする

参照 電源スイッチの押しかた「1章 4 - 3 電源を入れる」

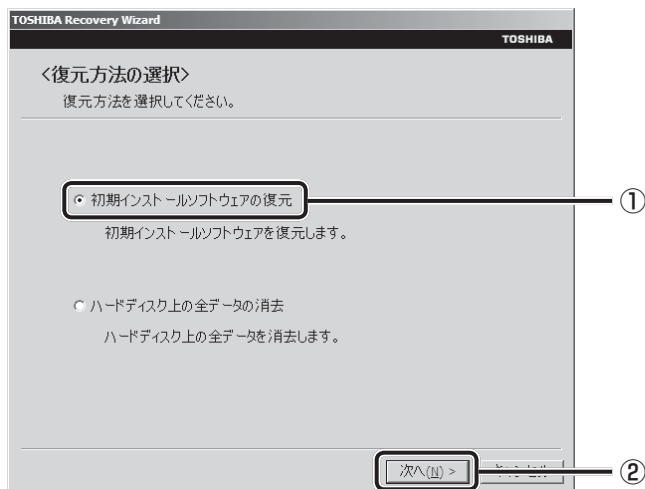
各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENT をタップしてください。
メッセージ画面が表示されます。

4 画面の内容を確認し、［はい］ボタンをタップし、ホームボタン（ ）をタップする

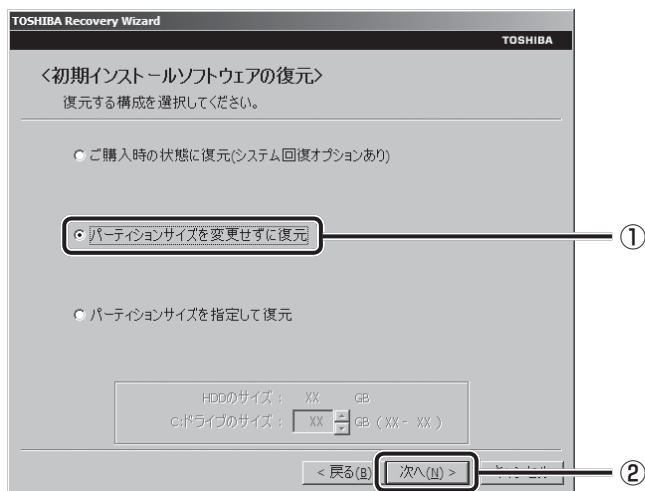
メッセージ画面が表示されます。

5 画面の内容を確認し、［はい］ボタンをタップする

［復元方法の選択］画面が表示されます。

6 **[初期インストールソフトウェアの復元] をチェックし①、[次へ] ボタンをタップする②**

[ハードディスク上の全データの消去] は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、内蔵フラッシュメモリのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、内蔵フラッシュメモリ上にある、リカバリーツールの領域以外のすべてのデータが削除されます。

参照 「5章 4 - 2 内蔵フラッシュメモリの内容をすべて消去する」

7 **[パーティションサイズを変更せずに復元] をチェックし①、[次へ] ボタンをタップする②**

ほかのメニューを選択する場合については、次を参照してください。

- [ご購入時の状態に復元 (システム回復オプションあり)]：P.86
- [パーティションサイズを指定して復元]：P.86

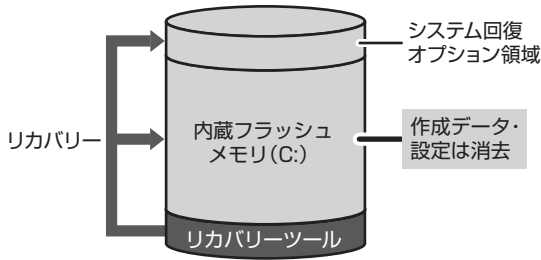
4章 買ったときの状態に戻すには —リカバリー—

● **［パーティションサイズを変更せずに復元］の意味と動作**
すでに内蔵フラッシュメモリの領域を分割している場合などに使用します。内蔵フラッシュメモリ（C:）がリカバリーされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

内蔵フラッシュメモリ（C:）にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去され、ご購入時のシステムやアプリケーションが復元された状態になります。

（内蔵フラッシュメモリの領域を分割している場合の例）

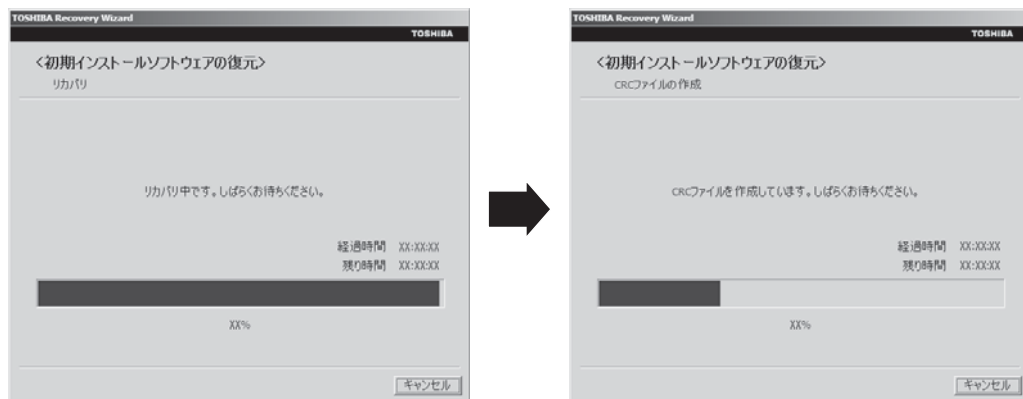
「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

メモ

● リカバリーツールとシステム回復オプションの領域が確保されているため、内蔵フラッシュメモリの100%を使用することはできません。

8 ［次へ］ボタンをタップする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをタップしてください。

［次へ］ボタンをタップすると、復元が実行され、［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。
復元中は、次の画面が表示されます。リカバリーの経過に従い、画面が変わります。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

9 ［終了］ボタンをタップする

システムが再起動し、［しばらくお待ちください。］画面が表示されます。
ここから次の手順の［Windowsのセットアップ］画面が表示されるまで、約1〜1.5時間かかります。この間、メッセージが表示されたり、システムが自動的に再起動したりしますが、何も操作する必要はありません。［Windowsのセットアップ］画面が表示されるまで、お待ちください。
また、この間は絶対に電源を切らないでください。

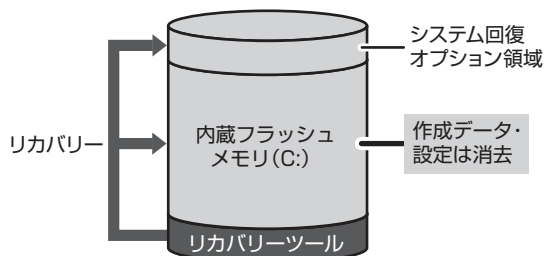
10 Windowsのセットアップを行う

参照 詳細について「1章 4 - 1 - 4 Windowsのセットアップ」

その他のリカバリーメニューについて

「本節 2 内蔵フラッシュメモリからリカバリーをする」の手順 7 の［初期インストールソフトウェアの復元］画面の、［パーティションサイズを変更せずに復元］以外のメニューの意味と動作は次のようになります。

■ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）

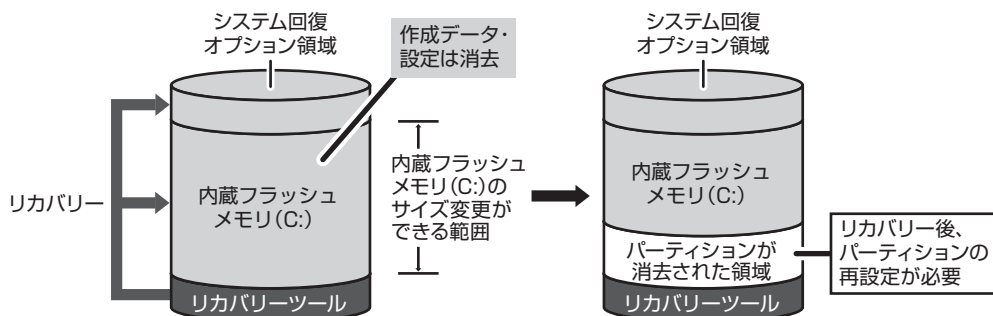
パソコンを購入したときの状態に戻します。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去され、ご購入時のパーティション、システム、アプリケーションが復元された状態になります。

手順 7 では、［ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）］をチェックして［次へ］ボタンをタップしてください。「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

■パーティションサイズを指定して復元

内蔵フラッシュメモリ（C:）のサイズを変更します。
内蔵フラッシュメモリ（C:）以外の領域区分（パーティション）は消去され、1つの領域になります。この領域はそのままではドライブとして認識されず、使用することはできません。リカバリー後、「コントロールパネル」の「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。

参照 ディスクの管理「本章 4 - 1 パーティションを変更してリカバリーをした場合」

リカバリーを行うと、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去され、ご購入時のシステムやアプリケーションが復元された状態になります。

手順 7 では次の操作を行ってください。

①［パーティションサイズを指定して復元］をチェックする
②［C：ドライブのサイズ］で ▲ ▼ をタップしてパーティション（内蔵フラッシュメモリ（C:））のサイズを指定する
③［次へ］ボタンをタップする
「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

3 リカバリーメディアからリカバリーをする

リカバリーメディアは、あらかじめ作成しておく必要があります。

参照 リカバリーメディアの作成『オンラインマニュアル』

外付けのDVDドライブ(東芝製オプション)を使用して、DVDのリカバリーメディアでリカバリーをする場合は、USBハブなどを使い、あらかじめDVDドライブを接続してください。

参照 接続方法『DVDドライブに付属の説明書』

1 ACアダプターと電源コードを接続する

2 リカバリーメディアをセットして、パソコンの電源を切る

リカバリーメディアが複数枚ある場合は、「ディスク1」からセットしてください。
USBフラッシュメモリの場合はUSBコネクタに差し込んでください。

参照 USBフラッシュメモリの場合『オンラインマニュアル』
外付けのDVDドライブの場合『DVDドライブに付属の説明書』

3 音量大ボタン(＋)を押しながら、電源スイッチを押し、表示されたメニューから[ODD]または[USB]をタップし、ホームボタン( )をタップする

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENT をタップしてください。

参照 電源スイッチの押しかた「1章 4 - 3 電源を入れる」

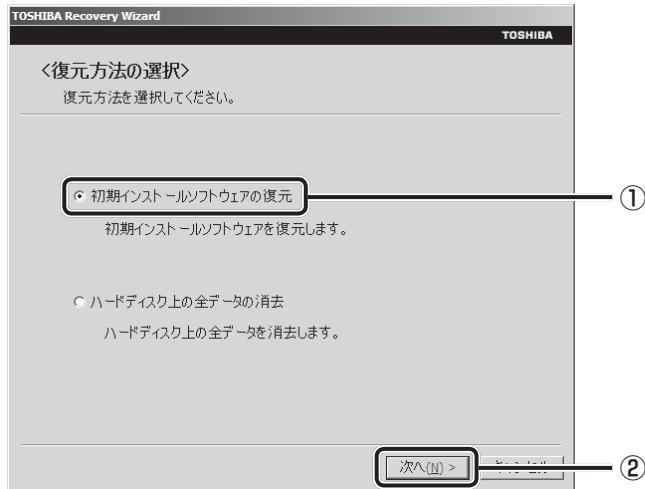
リカバリーメディアがDVDの場合は外付けのDVDドライブを示す項目([ODD]など)、リカバリーメディアがUSBフラッシュメモリの場合はUSBフラッシュメモリを示す項目([USB]など)をタップし、ホームボタン( )をタップしてください。
メッセージ画面が表示されます。

■「TOSHIBA Recovery Wizard」か「システム回復オプション」かを選択する画面が表示された場合

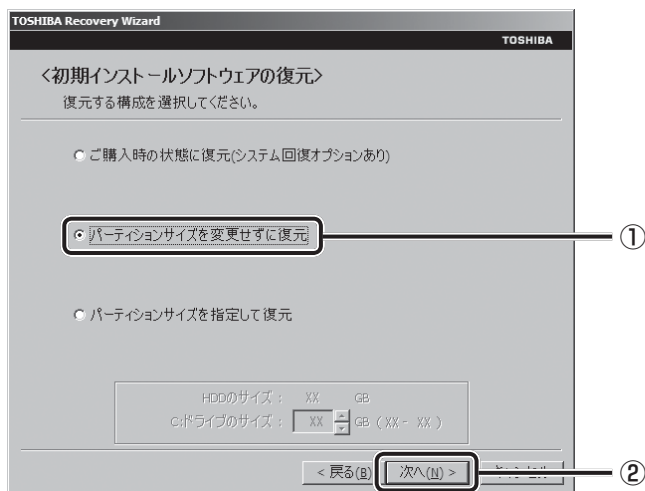
[TOSHIBA Recovery Wizard]をチェックし、[次へ]ボタンをタップしてください。
「システム回復オプション」には、パソコンを使用するうえでのさまざまなトラブルやデータ保護に対応したメニューが用意されています。
詳しくは、「本章 2 - 1 -「システム回復オプション」で調べる」を参照してください。

4 画面の内容を確認し、［はい］ボタンをタップする

［復元方法の選択］画面が表示されます。

5 ［初期インストールソフトウェアの復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをタップする②

［ハードディスク上の全データの消去］は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、内蔵フラッシュメモリのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、内蔵フラッシュメモリ上にある、すべてのデータが削除されます。

参照 「5章 4 - 2 内蔵フラッシュメモリの内容をすべて消去する」

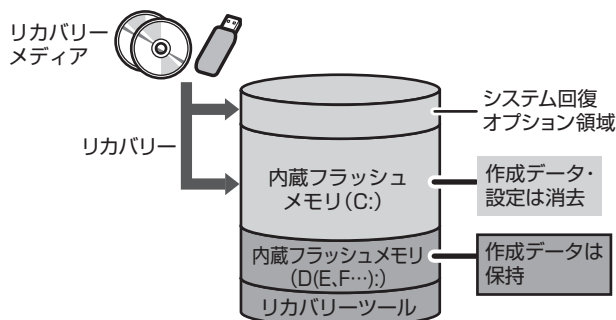
6 ［パーティションサイズを変更せずに復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをタップする②

ほかのメニューを選択する場合については、次を参照してください。

- ［ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）］：P.91
- ［パーティションサイズを指定して復元］：P.91

● ［パーティションサイズを変更せずに復元］の意味と動作
すでに内蔵フラッシュメモリの領域を分割している場合などに使用します。内蔵フラッシュメモリ（C:）がリカバリーされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。
内蔵フラッシュメモリ（C:）にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去され、ご購入時のシステムやアプリケーションが復元された状態になります。

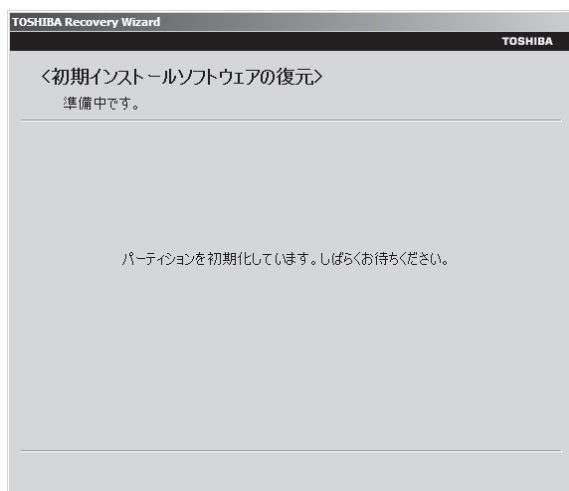
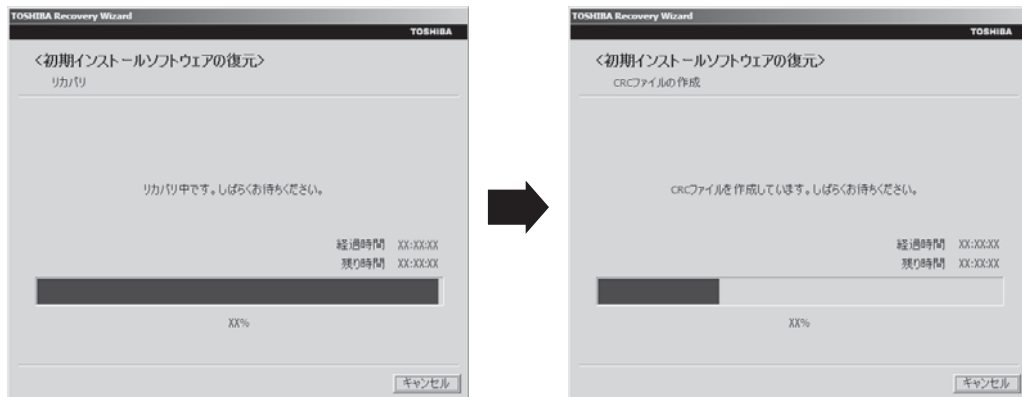
（内蔵フラッシュメモリの領域を分割している場合の例）

「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

メモ

● リカバリーツールとシステム回復オプションの領域が確保されているため、内蔵フラッシュメモリの100%を使用することができません。

7 ［次へ］ボタンをタップする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをタップしてください。

［次へ］ボタンをタップすると、復元が実行され、［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。
復元中は、次の画面が表示されます。リカバリーの経過に従い、画面が変わります。

＊最初に［コピーしています。］画面が表示される場合があります。長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

リカバリーメディアが複数枚ある場合は、メディアを入れ替えるメッセージが表示され、ディスクトレイが開きます。メディアの番号順に入れ替え、［OK］ボタンをタップしてください。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

8 リカバリーメディアの種類により次の操作を行う

■外付けのDVDの場合

①［終了］ボタンをタップする
　自動的にディスクトレイが開きます。
②リカバリーメディアを取り出す

■USBフラッシュメモリの場合

①USBフラッシュメモリを取りはずす
②［終了］ボタンをタップする

システムが再起動し、［しばらくお待ちください。］画面が表示されます。
ここから次の手順の［Windowsのセットアップ］画面が表示されるまで、約1〜1.5時間かかります。この間、メッセージが表示されたり、システムが自動的に再起動したりしますが、何も操作する必要はありません。［Windowsのセットアップ］画面が表示されるまで、お待ちください。
また、この間は絶対に電源を切らないでください。

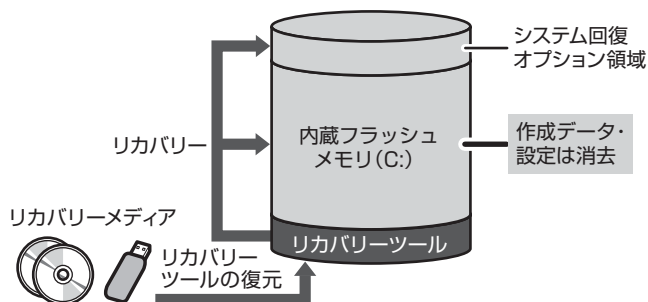
9 Windowsのセットアップを行う

参照 詳細について「1章 4 - 1 - 4 Windowsのセットアップ」

その他のリカバリーメニューについて

「本節 3 リカバリーメディアからリカバリーをする」の手順 6 の［初期インストールソフトウェアの復元］画面の、［パーティションサイズを変更せずに復元］以外のメニューの意味と動作は次のようになります。

■ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）

パソコンを購入したときの状態に戻します。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去され、ご購入時のパーティション、システム、アプリケーションが復元された状態になります。

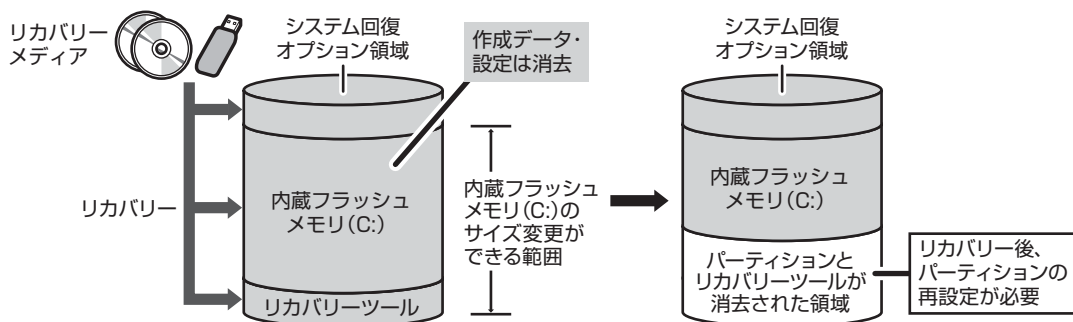
手順 6 では、［ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）］をチェックして［次へ］ボタンをタップしてください。「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

■パーティションサイズを指定して復元

内蔵フラッシュメモリ（C:）のサイズを変更します。

内蔵フラッシュメモリ（C:）以外の領域区分（パーティション）とリカバリーツールの領域は消去され、1つの領域になります。この領域はそのままではドライブとして認識されず、使用することはできません。リカバリー後、「コントロールパネル」の「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。

参照 ディスクの管理「本章 4 - 1 パーティションを変更してリカバリーをした場合」

リカバリーを行うと、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去され、ご購入時のシステムやアプリケーションが復元された状態になります。

手順 6 では次の操作を行ってください。

① ［パーティションサイズを指定して復元］をチェックする

② ［C：ドライブのサイズ］で ▲ ▼ をタップしてパーティション（内蔵フラッシュメモリ（C:））のサイズを指定する

③ ［次へ］ボタンをタップする

「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

4 リカバリーをしたあとは

購入後に変更した設定がある場合は、Windowsのセットアップ後に、もう一度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windowsのセットアップ後に行ってください。
その他必要に応じて、インターネットやメールの再設定、ウイルスチェックソフトの設定や更新などが必要です。

参照 詳細について「本章 2 - 2 リカバリー（再セットアップ）の流れ」

ここでは次の点を説明します。

- パーティションの設定
- バックアップデータの復元

メモ

- Office搭載モデルの場合、リカバリーをしたあとでOffice製品のライセンス認証が必要になります。
- 一部のアプリケーションは、リカバリー後に再インストールをする必要があります。

参照 詳細について「本章 5 プレインストールのアプリケーションを再インストールする」

1 パーティションを変更してリカバリーをした場合

［パーティションサイズを指定して復元］を選択してリカバリーをした場合のみ、リカバリー後すみやかに次の設定を行ってください。

お願い パーティションを設定するにあたって

- Windowsの「ディスクの管理」を使用すると、ボリュームがないプライマリパーティションが表示されます。このパーティションにはリカバリー（システムの復元）するためのデータが保存されていますので、削除しないでください。削除した場合、リカバリーはできなくなります。

1 管理者ユーザーアカウントでログオンする

2 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をタップする

3 ［ システムとセキュリティ］→［ 管理ツール］をタップする

4 ［ コンピューターの管理］をダブルタップする

5 画面左側の［ ディスクの管理］をタップする

設定していないパーティションは［未割り当て］と表示されます。

6 ［ディスク0］の［未割り当て］の領域をプレス アンド ホールドする

7 表示されるメニューから［新しいシンプル ボリューム］をタップする

［新しいシンプル ボリューム ウィザード］が起動します。

8 ［次へ］ボタンをタップし、ウィザードに従って設定する

次の項目を設定します。

・ボリューム サイズの指定
・ドライブ文字またはパスの割り当て
・パーティションのフォーマット
　・ファイルシステム
　・アロケーションユニットサイズ
　・ボリュームラベル
　・クイックフォーマット
　・ファイルとフォルダーの圧縮

9 設定内容を確認し、［完了］ボタンをタップする

フォーマットが開始されます。
パーティションの状態が［正常］と表示されれば完了です。

詳しくは、「コンピューターの管理」のヘルプを参照してください。

■ヘルプの起動

①［コンピューターの管理］画面のメニューバーから［ヘルプ］→［トピックの検索］をタップする

2 バックアップしておいたデータを復元する

バックアップをとっておいたデータを使いたい場合は、バックアップした記録メディアからデータを読み込んでください。

■インターネット接続の設定情報

インターネット接続の設定情報は、データのバックアップがとれません。
プロバイダーから送られてきた書類や、お客様ご自身で設定情報を控えておいたメモなどを元に、もう一度設定し直してください。

■MS-IMEで登録した単語

詳しくは、「MS-IME」のヘルプを確認してください。

■[ドキュメント]、[お気に入り]のデータや、その他のファイルやフォルダーなど

- [ドキュメント](または[マイ ドキュメント])、[ピクチャー](または[マイ ピクチャー])などのデータ
- 購入後にデスクトップに保存したデータ
- Microsoft Internet Explorerの[お気に入り]のデータ
- メール送受信データ
- メールアドレス帳
- プレインストールされているアプリケーションのデータやファイル
- 購入後にインストールしたアプリケーションのデータ
- 購入後に作成したフォルダーとファイル

参照 メール送受信データ、メールアドレス帳の復元について『メールソフトに付属の説明書』
その他のデータの復元について『オンラインマニュアル』

「東芝ファイルレスキュー」など、アプリケーションによってバックアップ方法や復元方法が用意されている場合は、その方法に従って復元してください。詳しくは、アプリケーションのヘルプを参照してください。

参照 東芝ファイルレスキューでのデータの復元
「本章 1 - 1 - 2 救助したデータを復元する」

5 プレインストールのアプリケーションを再インストールする

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、一度削除してしまっても、必要なアプリケーションやドライバーを指定して再インストールすることができます。

アプリケーションによっては、再インストール時にID番号などが必要です。あらかじめ確認してから、再インストールすることをおすすめします。

同じアプリケーションがすでにインストールされているときは、コントロールパネルの「プログラムのアンインストール」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。
アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

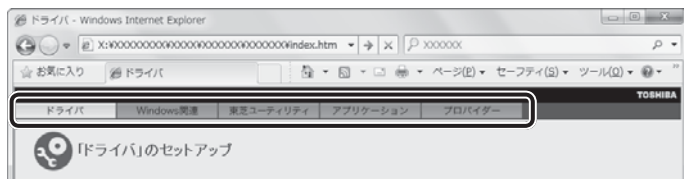
メモ

- アプリケーションをインストール／アンインストールする場合は、必ず横置きで行ってください。縦置きでは、インストール／アンインストールできない場合があります。

1 操作手順

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をタップする

2 ［セットアップ画面へ］をタップする

アプリケーションやドライバーのセットアップメニュー画面が表示されます。アプリケーションやドライバーのセットアップメニューは、カテゴリごとのタブに分かれています。

（表示例）

初めて起動したときは、［ドライバー］タブが表示されています。タブをタップして再インストールしたいアプリケーションを探してください。
画面左側にはアプリケーションの一覧が表示されています。
画面右側にはアプリケーションの説明が書かれていますので、よくお読みください。

3 左側のアプリケーション名を選択し、画面右側の［「XXX」のセットアップ］をタップする

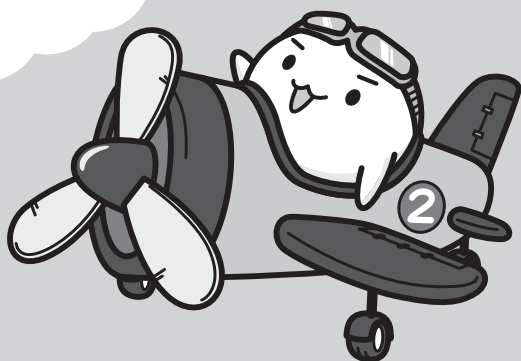
「XXX」にはアプリケーション名が入ります。
選択したメニューによっては別の言葉が表示されます。説明文の下の、下線が引かれている言葉をタップしてください。

4 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをタップしてください。

5章

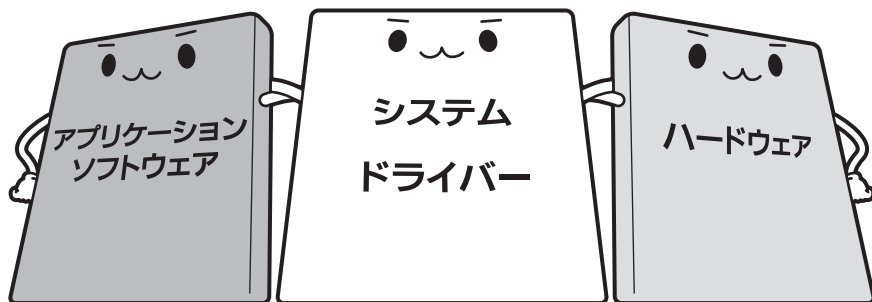
困ったときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。
また、パソコン本体を捨てるときや人に譲るときに知っておいて欲しいことを説明しています。

1 トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

1 トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。
ここでは、パソコンの構成と、それぞれの構成部分で起こるトラブルの例、その解決方法を紹介します。

■パソコンを構成する３つの部分

● **アプリケーションソフトウェアとは**
メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。Word（ワード）（文書作成ソフト）やExcel（エクセル）（表計算ソフト）、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。

● **システム、ドライバーとは**
システムは、オペレーティングシステム、OS（オーエス）ともいい、パソコンを動かすための基本的な働きをします。本製品のシステムはWindows 7です。
ドライバーは、周辺機器とシステムを連携する役割をします。ドライバーがないと、周辺機器は使用できません。代表的なドライバーに、ディスプレイドライバーやサウンドドライバーなどがあります。基本的なドライバーはシステムが標準装備していますが、周辺機器製品に専用のドライバーが付属している場合もあります。

● **ハードウェアとは**
バッテリー、ACアダプター、ディスプレイ、内蔵フラッシュメモリ、CPUなどの、パソコン本体や接続する機器を指します。

パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状に合わせた対処をすることが解決への早道です。
トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→システム（OS）、ドライバー→ハードウェア（パソコン本体）の順にチェックします。

STEP1 アプリケーションソフトウェアに原因がある場合

トラブル

例1： メールやインターネットがつながらない

アクセスポイントやメールサーバー、ID、パスワードなどの設定を確認します。これらの設定は契約プロバイダーごとに異なります。契約プロバイダーから指定された設定データが正しくパソコンの設定に反映されているかを確認してください。

解消法

例1： プロバイダーへのお問い合わせについて

お客様ご契約のプロバイダーの窓口へお問い合わせください。

トラブル

例2： アプリケーションの使いかたがわからない

各アプリケーションのヘルプなどで使いかたを確認します。

解消法

例2： アプリケーションの使いかたについて

各アプリケーションのヘルプで操作方法を確認したり、各アプリケーションのサポート窓口へお問い合わせください。

参照 アプリケーションのお問い合わせ先
「本章 5 お問い合わせ先」

STEP2 システム（OS）やドライバーに原因がある場合

トラブル

例3： 正常に画面が表示されない、音が出ない、設定が合っているのにインターネットにつながらない

解消法

例3・例4：ドライバーを入れ直す

再起動をすると自動的にドライバーの検出を行う場合があります。再起動後、［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示された場合は、画面の指示に従ってください。

参照 再起動「1章 4 - 2 - 再起動」

例4： 青い画面で「STOPOX****」（一般に「STOPエラー」や「ブルースクリーン」「ブルーパニック」と呼ばれる画面）が表示された**

例4： 動作に影響を与えているアプリケーションや周辺機器を調べる

周辺機器やソフトをインストールしたあとに起こることが多いものです。その前に行った作業を一度元に戻すことでトラブルが解消される場合があります。

周辺機器を取りはずしたり、「システム構成ユーティリティ」でプログラムやサービスを停止して起動したりすることで調べることができます。

それでもトラブルが解消しない場合には、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

参照 『東芝PCサポートのご案内』

役立つ操作集

「システム構成ユーティリティ」で調べる

Windowsの動作が不安定な場合や動きが遅い場合、常駐アプリケーションや不要なサービスが影響を与えている場合があります。

まず、必要最低限のシステムで起動してみて、アプリケーションやサービスが影響を与えているかどうかを確認します。影響を与えているアプリケーションやサービスを詳しく調べるには「システム構成ユーティリティ」を使用します。

① ［スタート］ボタン（）→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［ファイル名を指定して実行］をタップする

② 「MSCONFIG」と入力して［OK］ボタンをタップする
［システム構成］画面が表示されます。

③ ［診断スタートアップ］を選択し、［OK］ボタンをタップする
確認画面が表示されます。

④ ［再起動］ボタンをタップする
Windowsが終了され、自動的に必要最低限のシステム構成で起動します。

その状態で動作の確認を行い、問題がなければ、アプリケーションやサービスがWindowsの動作に影響を与えています。

STEP3 ハードウェア（パソコン本体や接続する機器）に原因がある場合

トラブル

例5： ドライバーを入れ直しても機器が動かない

解消法

例5： 問い合わせる

東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

参照 『東芝PCサポートのご案内』

周辺機器が動作しない場合は、各周辺機器のサポート窓口へお問い合わせください。

例6： Power ⏻ LEDが点灯せず、パソコンがまったく動作しない

例6： 問い合わせる

まったくパソコンが動作しない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。

パソコンの操作について困ったときや、修理のご依頼は東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

参照 『東芝PCサポートのご案内』

2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

STEP1 本書の「Q&A集」から探す

本書の「Q&A集」では、トラブルの解決方法を説明しています。同じトラブルのQ&Aがないか、確認してみてください。

参照 「本章 2 Q&A集」

STEP2『オンラインマニュアル』を読む

本製品には『取扱説明書』（本書）と『オンラインマニュアル』があります。
『オンラインマニュアル』も読んでください。

参照 「1章 6 - 2 パソコンの画面で見るマニュアル」

STEP3 サポートのサイトで調べる

インターネットに接続している場合は、次のサポートサイトをご覧ください。

- 「あなたのdynabook.com」
  本製品独自のサポートサイト「あなたのdynabook.com」には、ご利用のパソコンの「よくある質問 FAQ」、デバイスドライバーや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などが掲載されています。ご利用のパソコンに関する情報だけが表示されるので、目的の情報を簡単に探すことができます。
  また、サポート窓口や修理についても案内しています。
- 「dynabook.com」
  東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」では、お問い合わせの多い質問や最新のQ&Aが掲載されています。

参照 「あなたのdynabook.com」「dynabook.com」について
『東芝PCサポートのご案内』

サポートサイトの説明を読んでもトラブルが解決しない場合は、お問い合わせ専用フォームから質問メールを出すこともできます。

STEP4 それでもトラブルが解決しない場合は問い合わせる

- パソコン本体のトラブルの場合
  『東芝PCサポートのご案内』で必要事項を確認のうえ、東芝PCあんしんサポートにご連絡ください。
- OSやアプリケーションのトラブルの場合
  本製品に用意されているOS、アプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

  参照 OSやアプリケーションのお問い合わせ先「本章 5 お問い合わせ先」
- 周辺機器のトラブルの場合
  各周辺機器のサポート窓口にお問い合わせください。

  参照 周辺機器のお問い合わせ先 『周辺機器に付属の説明書』

2 Q&A集

1 電源を入れるとき／切るとき

Q 電源スイッチを押して指をはなしても、Power LEDが点灯しない

A 電源スイッチを押す時間が短いと電源が入らないことがあります。
確実に電源スイッチを押してください。Power LEDが点灯することを確認してください。

Q 電源が入るが、すぐに切れてしまう 電源が入らない

A バッテリーの充電量が少ない可能性があります。
次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用のACアダプターを接続し、充電する
（他製品用のACアダプターは使用できません）
- 充電済みのバッテリーパックと取り換える

参照 バッテリーの充電について『オンラインマニュアル』

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。

A パソコン本体からいったん、電源コードとACアダプター、バッテリーパックをすべて取りはずしてください。
①電源コードとACアダプターを取りはずす
パソコンに接続している周辺機器も取りはずしてください。
②バッテリーパックを取りはずす
電源コードとACアダプター、バッテリーパックを取りはずすと、電源が入らない状態になります。そのままの状態で、しばらく放置してください。
③バッテリーパックを取り付ける
④電源コードとACアダプターを取り付けて、電源プラグをコンセントに差し込む
⑤電源スイッチを押し、指をはなす
確実に電源スイッチを押してください。Power LEDが点灯することを確認してください。

参照 電源コードとACアダプターの接続
「1章 4 - 1 - 2 電源コードとACアダプターを接続する」

参照 バッテリーパックの取り付け／取りはずしについて
「3章 2 - 2 バッテリーパックを交換する」

以上の手順でも解決できない場合は、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

Q 電源を入れたが、システムが起動しない

A 起動ドライブを内蔵フラッシュメモリ以外に設定した場合に、システムの入っていない記録メディアがセットされている可能性があります。

システムが入っている記録メディアと取り換えるか、またはドライブから記録メディアを取り出してから、何かキーを押してください。
それでも正常に起動しない場合は、次のように操作してください。

①電源スイッチを5秒以上押して電源を切る
②音量大ボタン（＋）を押しながら、電源スイッチを押す
　各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENT をタップしてください。
③表示されたメニューからシステムの入っているドライブ（通常は内蔵フラッシュメモリを示す項目）をタップし、ホームボタン（🏠）をタップする

A 次の手順を行うと、セーフモードまたは前回正常に起動したときの構成で起動し直すことができます。

電源スイッチを5秒以上押して強制終了したあと、次のように操作してください。

①外付けキーボードを接続する
②電源を入れる
③TOSHIBAロゴが表示されたら、メニューが表示されるまで F8 キーを数回押す
　各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENT をタップしてください。そのあとすぐに、F8 キーを再び数回押してください。
　「詳細ブート オプション」が表示されます。
④目的に合わせて［セーフモード］または［前回正常起動時の構成（詳細）］を選択し、ENTER キーを押す

Q 使用中に前触れもなく、突然電源が切れることがある

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
それでも電源が切れる場合は、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

A バッテリー駆動で使用している場合、バッテリーの充電量がなくなった可能性があります。

次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用のACアダプターを接続し、充電する
（他製品用のACアダプターは使用できません）
- 充電済みのバッテリーパックと取り換える

参照 バッテリーの充電について『オンラインマニュアル』

Q　しばらく操作しないとき、電源が切れる

A Power LEDが白色に点灯している場合、省電力機能が働いた可能性があります。

しばらく操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
画面にさわると表示が復帰します。
テレビまたは外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A Power LEDが白色に点滅しているか、消灯の場合、自動的にスリープまたは休止状態になった可能性があります。

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスリープまたは休止状態にするように設定されています。
復帰させるには、電源スイッチを押してください。
また、次の手順で設定を解除できます。

①［スタート］ボタン（　）→［コントロールパネル］をタップする
②［　システムとセキュリティ］→［　電源オプション］をタップする
③利用する電源プランを選択し、［プラン設定の変更］をタップする
④［ディスプレイの電源を切る］および［コンピューターをスリープ状態にする］で［なし］を選択する
［バッテリ駆動］と［電源に接続］にそれぞれ設定してください。
⑤［変更の保存］ボタンをタップする

2 画面／表示

Q　青い画面（ブルースクリーン）が表示され、操作できなくなった

A 電源スイッチを５秒以上押してWindowsを強制終了してください。

システムが操作できなくなったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スリープ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
強制終了したあと、電源を入れ直してください。

A 以上の手順でも解決できない場合は、「本節 3 - Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない」を確認してください。

Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

A 省電力機能が働いた可能性があります。

しばらく操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

画面にさわると表示が復帰します。

テレビまたは外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、パソコンをスリープや休止状態から復帰したとき、本体液晶ディスプレイに何も表示されない

A テレビまたは外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。

テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。パソコン画面が表示されていた場合は、『オンラインマニュアル』を参照して、本体液晶ディスプレイに表示を切り替えてください。

Q テレビまたは外部ディスプレイを取りはずしたときに、画面が表示されなくなった

A テレビまたは外部ディスプレイを接続してください。

テレビまたは外部ディスプレイを主ディスプレイに指定して拡張表示の設定をした場合、スリープや休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイを取りはずすと、スリープや休止状態から復帰したときに画面が表示されないことがあります。

テレビまたは外部ディスプレイの取りはずしは、スリープや休止状態のときに行わないでください。

Q 画面が薄暗く、よく見えない

A 「TOSHIBA Flash Cards」の［輝度］のカードで輝度を明るくしてください。

右にドラッグすると明るくなり、左にドラッグすると暗くなります。

A 本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

「電源オプション」には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。
詳しくは、「電源オプション」のヘルプを参照してください。
次の手順で設定を変更してください。＊1

① ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をタップする
② ［ システムとセキュリティ］→［ 電源オプション］をタップする
③ 利用する電源プランを選択し、［プラン設定の変更］をタップする
④ ［プランの明るさを調整］を設定する
［バッテリ駆動］と［電源に接続］をそれぞれ設定してください。
⑤ ［変更の保存］ボタンをタップする

＊1 この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。

Q 画面が回転する／回転しない

A 本製品は、手に持っているときの角度に合わせて画面表示が回転します。

オリエンテーションロックスイッチで、本製品をどの角度で持っても回転しないように設定することもできます。

参照 画面の向きを設定する『オンラインマニュアル』

3 システム／内蔵フラッシュメモリ

Q パソコンが応答しなくなった

A アプリケーションを終了できない場合や、アプリケーションを終了してもトラブルが解消しない場合は、パソコンを再起動してください。

参照 再起動「1章 4 - 2 - 再起動」

A Windows起動時に問題が起きた場合や、パソコンを再起動できない場合は、電源スイッチを5秒以上押してWindowsを強制終了してください。

システムが操作できなくなったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スリープ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
強制終了したあと、電源を入れ直してください。

A 以上の手順でも解決できない場合は、「本項 - Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない」を確認してください。

Q Windowsがセーフモードで起動した

A パソコンを再起動してください。

参照 再起動「1章 4 - 2 - 再起動」

A 以上の手順でも解決できない場合は、「本項 - Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない」を確認してください。

Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない

A ドライバーやシステムのアップデート中（更新中）にトラブルが発生した場合は、直前の正常に起動したときの構成で起動してください。

参照 前回正常に起動したときの構成で起動する
「本節 1 - Q 電源を入れたが、システムが起動しない」

A アプリケーションをインストールしてから、この問題が発生するようになった場合は、インストールしたアプリケーションがWindowsの動作に影響している可能性があります。

アプリケーションをアンインストールしてください。

参照 アンインストール『アプリケーションに付属の説明書』

A 周辺機器を接続してから、この問題が発生するようになった場合は、接続した周辺機器がWindowsの動作に影響している可能性があります。

周辺機器を取りはずしてください。周辺機器によっては、周辺機器に付属のドライバーやアプリケーションをパソコンにインストールしている場合があります。これらのドライバーやアプリケーションもアンインストールしてください。

参照 周辺機器の取り扱いについて『周辺機器に付属の説明書』

4 タップ（ソフトキーボード／ソフトタッチパッド）

Q タップしても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形（ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、タップやマウス、外付けキーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A 省電力機能が働いた可能性があります。

しばらく操作しないと、省電力機能が働き、反応しなくなる場合があります。
もう一度タップしてください。動作が復帰します。

Q タップの感度を調節したい

A 次の手順で、タップの感度を調節してください。

① [スタート] ボタン ( ) → [コントロールパネル] をタップする
② [ハードウェアとサウンド] → [ペンとタッチ] をタップする
[ペンとタッチ] 画面が表示されます。
③ [フリック] タブの [感度] で [タッチ] のスライダーバーを左右にドラッグする
④ [OK] ボタンをタップする

Q タップの反応位置を調整したい

A 次の手順で、タップの反応位置を調整してください。

① [スタート] ボタン ( ) → [コントロールパネル] をタップする
② [ハードウェアとサウンド] → [Tablet PC 設定] をタップする
[Tablet PC 設定] 画面が表示されます。
③ [画面] タブの [ディスプレイオプション] の [ディスプレイ] で [モバイル PC ディスプレイ] を選択する
④ [リセット] ボタンが表示されている場合は、[リセット] ボタンをタップする
⑤ [調整] ボタンをタップする
⑥ 黒く太い線で「+」が表示されるたびに、その位置をタップする
⑦ メッセージ画面が表示されたら、[はい] をタップする

5 マウス

＊マウスは、別売りです。

Q クリックしても反応がない

A マウスが正しく接続されていない可能性があります。

マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

Q レーザーマウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、鏡など）

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

Q　光学式マウスの反応がおかしい

A　光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど）
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面（人工大理石、新品のオフィスデスクなど）
- 画像パターンの方向性が強い表面（正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど）

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。
光学式マウスに対応したマウスパッドの使用を推奨します。
光学式マウスに対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。

A　平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

6 メッセージ

Q　「パスワードを入力してください。」と表示された

A　Windows上のユーティリティまたはBIOSセットアップで設定したBIOSパスワードを入力し、ENTをタップしてください。

パスワードを忘れた場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有料にてパスワードを解除します。その際、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

Q　「HDD/SSDのパスワードを入力してください」と表示された

A　BIOSセットアップで設定したHDDパスワードを使って認証を行ってください。

HDDパスワードを入力し、ENTをタップします。
HDDパスワードを忘れてしまった場合は、内蔵フラッシュメモリは永久に使用できなくなり、交換対応となります。東芝PCあんしんサポートに連絡してください。交換対応は有料です。その際、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

Q 「システムの日付または時刻が無効です」と表示された

A 日付と時刻を設定してください。

Windows Updateやアプリケーションのセットアップを行う場合は、正しい日付と時刻を設定してから行ってください。

参照 日付と時刻の設定について『Windows ヘルプとサポート』

Q 次のようなメッセージが表示された

- 「Insert system disk in drive.Press any key when ready」
- 「Non-System disk or disk error Replace and press any key when ready」
- 「Invalid system disk Replace the disk,and then press any key」
- 「Boot:Couldn't Find NTLDR Please Insert another disk」
- 「Disk I/O error Replace the disk,and then press any key」
- 「Cannot load DOS press key to retry」
- 「Remove disks or other media.Press any key to restart」
- 「NTLDR is missing Press any key to restart」

A 外付けのCD／DVDや、USBフラッシュメモリなどの起動ディスクを取り出し、何かキーを押してください。

上記の操作を行っても解決しない場合は、『東芝PCサポートのご案内』で必要事項を確認のうえ、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

Q その他のメッセージが表示された

A 『使用しているシステムやアプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

7 その他

Q 内蔵フラッシュメモリからリカバリーできなくなったときは

A 内蔵フラッシュメモリに搭載されているリカバリー（再セットアップ）ツール（システムを復元するためのもの）のデータが破損、もしくは誤って消去されている可能性があります。
また、市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、リカバリーができなくなることがあります。
「TOSHIBA Recovery Media Creator」で作成したリカバリーメディアを使って、リカバリーしてください。

参照 リカバリーの操作方法「4章 3 - 3 リカバリーメディアからリカバリーをする」

リカバリーメディアがない場合は、修理が必要になる可能性があります。東芝PCあんしんサポートに相談してください。

参照 修理のお問い合わせについて『東芝PCサポートのご案内』

Q 本製品に飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。
もし、液体が本製品内部に入ったときは、ただちに電源を切り、ACアダプターとバッテリーパックを取りはずして、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

Q 異常な臭いや過熱に気づいた！

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。安全を確認してバッテリーパックをパソコン本体から取りはずしてから東芝PCあんしんサポートに相談してください。
なお、連絡の際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照 修理のお問い合わせについて『東芝PCサポートのご案内』

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

A 「トラブル対処法」を確認してください。

本書の「トラブル対処法」では、トラブルを解決するための対処手順を説明しています。ご確認ください。

参照 「本章 1 - 2 トラブル対処法」

A パソコン本体のトラブルの場合は、『東芝PCサポートのご案内』で必要事項を確認のうえ、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

A OSやアプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

参照 OSやアプリケーションのお問い合わせ先「本章 5 お問い合わせ先」

A 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口にお問い合わせください。

参照 周辺機器のお問い合わせ先『周辺機器に付属の説明書』

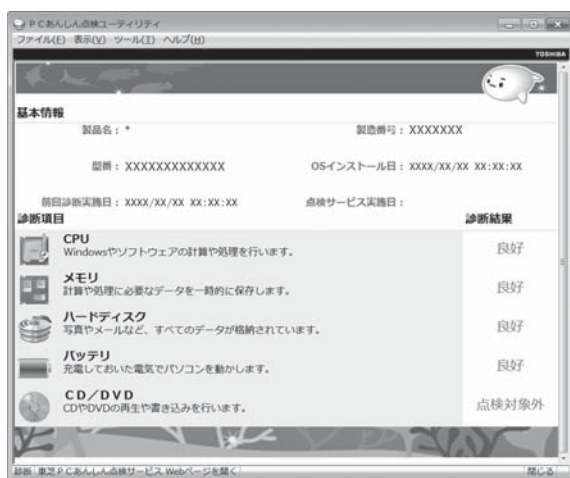
3 パソコンを自動的に点検する
－PCあんしん点検ユーティリティ－

＊Home搭載モデルのみ

「PCあんしん点検ユーティリティ」は、パソコンの調子の悪いところはないか、定期的に自動点検するアプリケーションです。
より詳しい点検が必要なときは、自己点検をおすすめするメッセージが表示されます。

1 起動方法

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［PCあんしん点検］→［PCあんしん点検ユーティリティ］をタップする**

「PCあんしん点検ユーティリティ」が起動します。

［東芝PCあんしん点検サービス Webページを開く］ボタンをタップすると、東芝のWebサイトへアクセスして、よくある事例や自己点検に関する説明を見ることができます。
詳細はヘルプを参照してください。

2 ヘルプの起動方法

［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［PCあんしん点検］→［PCあんしん点検ヘルプ］をタップする

メモ

- パソコンを点検するツールとして、東芝PC診断ツールもあります。
  東芝PC診断ツールは、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［PC診断ツール］をタップすると起動します。
  ツールの詳細はヘルプを参照してください。ヘルプは、［東芝PC診断ツール］画面の［ヘルプ］ボタンをタップすると表示されます。

4 捨てるとき／人に譲るとき

1 お客様登録の削除について

● **ホームページから削除する**

東芝ID（TID）をお持ちの場合はこちらからお願いします。

①インターネットで「http://room1048.jp」へ接続する

②［ログイン］ボタンをタップする

［セキュリティの警告］画面が表示された場合は、内容を確認し、［OK］ボタンをタップしてください。

③［東芝ID（TID）］と［パスワード］に入力し、［ログイン］ボタンをタップする

お客様専用ページにログインします。

④ページ右上の［登録情報変更］をタップする

［登録情報変更メニュー］画面が表示されます。

⑤［退会］をタップし、登録を削除する

※退会ではなく、商品の削除のみのお客様は、「登録情報変更メニュー」で商品削除を行ってください。

※TIDを退会されますと、「Shop1048」でのTID会員メニュー、およびポイントサービスなどもご利用いただけなくなりますので、あらかじめご了承ください。

● **電話で削除する**

「東芝ID事務局（お客様情報変更）」までご連絡ください。

● 東芝ID事務局（お客様情報変更）
TEL　　：0570-09-1048（ナビダイヤル）
受付時間 ：10:00～17:00（土・日、祝日、東芝特別休日を除く）

紹介しているホームページや電話番号は、お客様登録の内容変更や削除に関するお問い合わせ窓口です。
技術的なご相談や修理に関するお問い合わせは、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

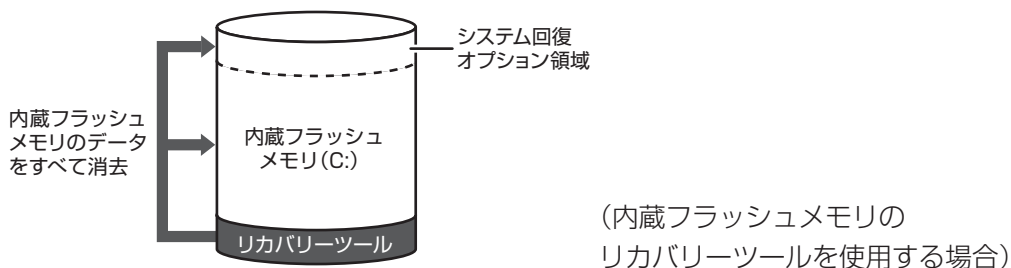
またリサイクルに関しては、『東芝PCサポートのご案内』を参照してください。

メモ　法人のお客様の場合

● 法人のお客様の場合は、ログインで表示される画面が異なります。
登録情報の変更および退会は「登録情報変更」のメニューで、ご自身で行っていただくことができますが、商品の削除ができませんので、その場合は東芝ID事務局までお電話でご連絡くださいますようお願いいたします。
詳しくは、次のホームページを参照してください。
URL：https://room1048.jp/onetoone/info/business.htm

2 内蔵フラッシュメモリの内容をすべて消去する

パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。

（内蔵フラッシュメモリの
リカバリーツールを使用する場合）

なお、内蔵フラッシュメモリに保存されている、データやプログラムなどはすべて消失します。パーティションも消失します。これらを復元することはできませんので、注意してください。

操作手順

内蔵フラッシュメモリの内容を削除するには、内蔵フラッシュメモリのリカバリーツール、または作成したリカバリーメディアを使用します。
内蔵フラッシュメモリのリカバリーツールを使用すると、内蔵フラッシュメモリ内のデータはすべて消去されますが、リカバリーツールは残ります。作成したリカバリーメディアを使用すると、内蔵フラッシュメモリ内のデータと共にリカバリーツールも消去されます。

メモ

- 内蔵フラッシュメモリのリカバリー（再セットアップ）ツール（システムを復元するためのもの）を削除した場合は、内蔵フラッシュメモリからのリカバリーはできません。
  その場合は、あらかじめ「TOSHIBA Recovery Media Creator」で作成したリカバリーメディアからリカバリーを行ってください。

■内蔵フラッシュメモリのリカバリーツールから行う方法

1 パソコンの電源を切る

2 ACアダプターと電源コードを接続する

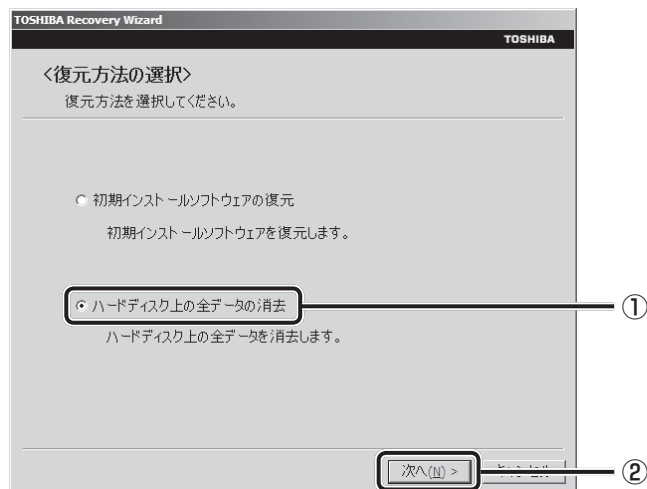
3 音量大ボタン（＋）を押しながら、電源スイッチを押し、表示されたメニューから［<HDDリカバリー>］をタップし、ホームボタン（ ）をタップする

参照 電源スイッチの押しかた「1章 4-3 電源を入れる」

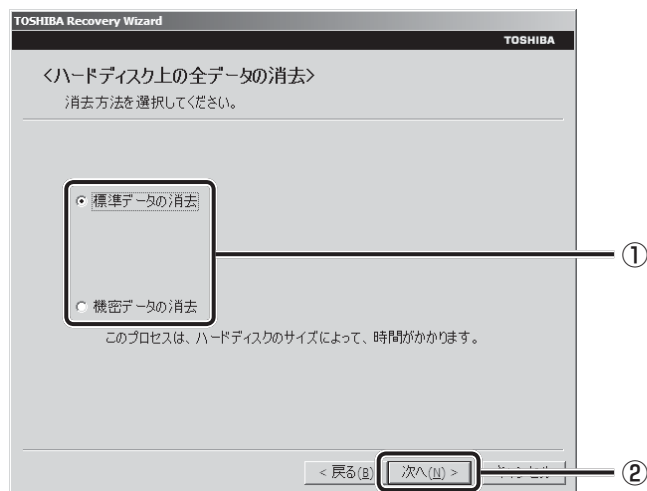
各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENT をタップしてください。
メッセージ画面が表示されます。

4 画面の内容を確認し、［はい］ボタンをタップする

［復元方法の選択］画面が表示されます。

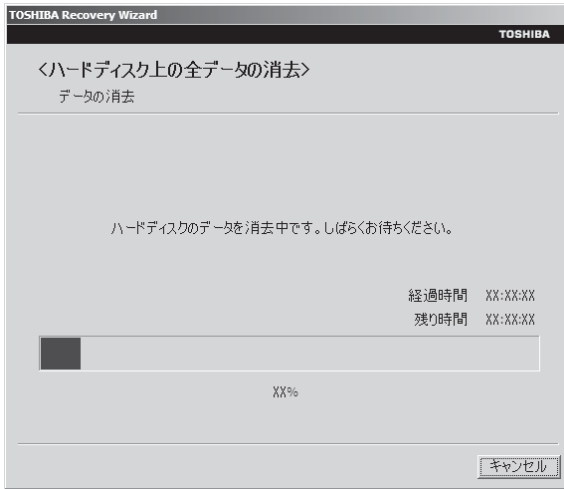
5 ［ハードディスク上の全データの消去］をチェックし①、［次へ］ボタンをタップする②

消去方法を選択する画面が表示されます。

6 目的に合わせて、［標準データの消去］または［機密データの消去］をチェックし①、［次へ］ボタンをタップする②

通常は［標準データの消去］を選択してください。データを読み取れなくなります。より確実にデータを消去するためには、［機密データの消去］を選択してください。数時間かかりますが、データは消去されます。

［データの消去を開始します。］画面が表示されます。

7 ［次へ］ボタンをタップする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをタップしてください。

［次へ］ボタンをタップすると消去が実行され、消去中は次の画面が表示されます。

消去が完了すると、終了画面が表示されます。

8 ［終了］ボタンをタップする

■リカバリーメディアから行う方法

リカバリーメディアは、あらかじめ作成しておく必要があります。

参照 リカバリーメディアの作成『オンラインマニュアル』

外付けのDVDドライブ（東芝製オプション）を使用して、DVDのリカバリーメディアを使用する場合は、USBハブなどを使い、あらかじめDVDドライブを接続してください。

参照 接続方法『DVDドライブに付属の説明書』

1 ACアダプターと電源コードを接続する

2 リカバリーメディアをセットして、パソコンの電源を切る

リカバリーメディアが複数枚ある場合は、「ディスク1」からセットしてください。
USBフラッシュメモリの場合はUSBコネクタに差し込んでください。

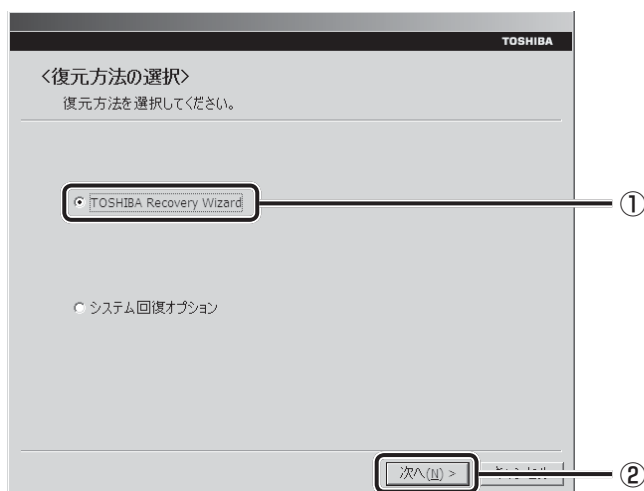
参照 USBフラッシュメモリの場合『オンラインマニュアル』
外付けのDVDドライブの場合『DVDドライブに付属の説明書』

3 **音量大ボタン（ ＋ ）を押しながら、電源スイッチを押し、表示されたメニューから［ODD］または［USB］をタップし、ホームボタン（ 🏠 ）をタップする**

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENT をタップしてください。

参照 電源スイッチの押しかた「1章 4 - 3 電源を入れる」

リカバリーメディアがDVDの場合は外付けのDVDドライブを示す項目（［ODD］など）、リカバリーメディアがUSBフラッシュメモリの場合はUSBフラッシュメモリを示す項目（［USB］など）をタップし、ホームボタン（🏠）をタップしてください。
［復元方法の選択］画面が表示されます。

4 **［TOSHIBA Recovery Wizard］をチェックし①、［次へ］ボタンをタップする②**

以降は、「本節 2 -内蔵フラッシュメモリのリカバリーツールから行う方法」の手順 5 以降を参照してください。

5 お問い合わせ先 －OS／アプリケーション－

本製品に用意されているOS、アプリケーションのお問い合わせ先を紹介しています。
各アプリケーションを使っていて困ったときは、こちらに連絡してください。

＊2011年4月現在の内容です。
各社の事情で、受付時間などが変更になる場合があります。

1 OSのお問い合わせ先

Windows 7に関する一般的なお問い合せ先は、東芝PCあんしんサポートになります。

Windows 7に関する一般的なサポート情報は、以下のホームページでもご確認いただくことができます。

http://support.microsoft.com

2 アプリケーションのお問い合わせ先

各アプリケーションのユーザー登録については、それぞれのお問い合わせ先までお問い合わせください。
用意されているアプリケーションはご購入のモデルにより異なります。

Microsoft Office Excel／Microsoft Office OneNote／Microsoft Office Outlook／Microsoft Office PowerPoint／Microsoft Office Word／Microsoft Office ナビ

サポート受付窓口

●基本操作に関するお問い合わせ

<メール サポート>

以下の Web サイトにアクセスし、ご質問または問題に関連する製品を選択してください。

URL　：http://support.microsoft.com/oas/

受付時間　：24時間いつでも受け付けています。

<電話サポート>

電話番号　：0120-54-2244
※ご利用の際は、電話番号をお間違えないようご注意ください。
※音声ガイダンスが流れますので、ガイダンスに従って番号のご選択をお願いいたします。

受付時間　：月曜日～金曜日：9:30 ～ 12:00、13:00 ～ 19:00
土曜日：10:00 ～ 17:00
（祝日、日本マイクロソフト株式会社指定休業日を除きます。日本マイクロソフト株式会社指定休業日以外で日曜日が祝日である場合には、日曜日は上記土曜日と同様の受付を行い、翌日の振替休日が休業となります。）

● **サポート有効期間**　：お客様が初めてお問い合わせいただいた日から起算して90日間（※）
※サポート ライフサイクル期間内

お問い合わせに関する詳細は、本体に同梱されている冊子『Office 2010 お使いになる前に』をご覧ください。

ウイルスバスター2011 クラウド™ 90日版

ウイルスバスターサービスセンター

受付時間　：9:30～17:30

TEL　：0570-008326
03-5334-1035（IP電話・光電話からのお問い合わせ）

E-mail　：http://tmqa.jp/r924/

ホームページ　：http://tmqa.jp/toshiba/

マカフィー サイトアドバイザプラス		
マカフィー・テクニカルサポートセンター		
（サイトアドバイザプラスに関する技術的な問い合わせ）		
受付時間	：	9:00～21:00（年中無休）
TEL	：	0570-060-033（ナビダイヤル） 03-5428-2279（ナビダイヤルがご利用いただけないお客様用）
E-mail	：	以下のWebフォームをご利用ください。 http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/supportcenter_inquiry_ts.asp
ホームページ	：	http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/
マカフィー・カスタマーオペレーションセンター		
（ユーザー登録や登録情報変更などの製品以外に関する問い合わせ）		
受付時間	：	月曜～金曜：9:00～17:00（年末年始、祝日を除く）
TEL	：	0570-030-088（ナビダイヤル） 03-5428-1792（ナビダイヤルがご利用いただけないお客様用）
E-mail	：	以下のWebフォームをご利用ください。 http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/supportcenter_inquiry_coc.asp
ホームページ	：	http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/
マカフィー・インフォメーションセンター		
（製品購入前の製品に関する問い合わせ）		
受付時間	：	月曜～金曜：9:00～17:00（年末年始、祝日を除く）
TEL	：	0570-010-220（ナビダイヤル） 03-5428-1899（ナビダイヤルがご利用いただけないお客様用）
E-mail	：	以下のWebフォームをご利用ください。 http://www.mcafee.com/japan/mcafee/home/msup/information_center.asp
ホームページ	：	http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/
マカフィー・テクニカルサポートセンターではチャットによるサポートもご提供しています。		
チャット	：	http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/chat.asp

DigiBook Browser for TOSHIBA		
デジブック☆オンライン		
受付時間	：	10:00～17:00（土日祝日除く）
TEL	：	03-6805-9240
FAX	：	03-5468-1250
E-mail	：	info@digibook.net
ホームページ	：	http://www.digibook.net/

i-フィルター6.0		
デジタルアーツ株式会社　サポートセンター		
受付時間	：	平日10：00～18：00、土・日・祝日10：00～18：00 （デジタルアーツ指定休業日を除く）
TEL	：	平日03-3580-5678、土・日・祝日0570-00-1334
E-mail	：	p-support@daj.co.jp
ホームページ	：	【よくある質問】　http://www.daj.jp/cs/support/pc/if6/ 【お問い合わせフォーム】　http://www.daj.jp/ask/

Sempre		
センプレ サポートデスク		
受付時間	：	月曜日～金曜日 10:00～19:00（祝日および指定休業日を除く）
TEL	：	0570-088998
ホームページ	：	http://www.sempre.tv/support/

Yahoo! ツールバー		
ヤフー株式会社　Yahoo! ツールバーヘルプ		
ホームページ	：	http://help.yahoo.co.jp/help/jp/toolbar/

テレビNaviガジェット		
株式会社 プレゼントキャスト　テレビNaviガジェットお問い合わせ窓口		
E-mail	：	gadget@presentcast.co.jp

ブックプレイスリーダー		
株式会社Book Live		
ブックプレイスのストアサイトをご確認ください。		
ホームページ	：	https://toshibabookplace.booklive.jp/
メールによるお問い合わせ		
	：	https://toshibabookplace.booklive.jp/index/contact/
FAQ	：	http://toshibabookplace.booklive.jp/index/faq/

Adobe Flash Player／Adobe Reader／ConfigFree／dynabook ポータルガジェット／Internet Explorer／Java™ 2 Runtime Environment／LaLaVoice／PC あんしん点検ユーティリティ／PC 引越ナビ／SmoothView／TOSHIBA Bulletin Board／TOSHIBA Desk Band／TOSHIBA Disc Creator／TOSHIBA eco ユーティリティ／TOSHIBA Flash Cards／TOSHIBA Media Browser／TOSHIBA Recovery Media Creator／TOSHIBA ReelTime／TOSHIBA SD-Video PLAYER／TOSHIBA Speech Synthesis／Windows Live Messenger／Windows Live Writer／Windows Live フォトギャラリー／Windows Live ムービーメーカー／Windows Live メール／Windows Media Center／Windows Media Player／オンラインマニュアル／東芝 HW セットアップ／東芝 PC ヘルスモニタ／東芝ウェブカメラアプリケーション／東芝サービスステーション／東芝スリープユーティリティ／東芝ファイル同期ユーティリティ／東芝ファイルレスキュー／東芝プレイスガジェット／東芝ボタンサポート／東芝無線 LAN インジケーター／ブックプレイスリーダー

東芝（東芝 PC あんしんサポート）

全国共通電話番号　：0120-97-1048（通話料・電話サポート料無料）
おかけいただくと、ガイダンスが流れます。ガイダンスに従って操作してください。
技術的な質問、お問い合わせは、ガイダンスの後で［1］をプッシュしてください。

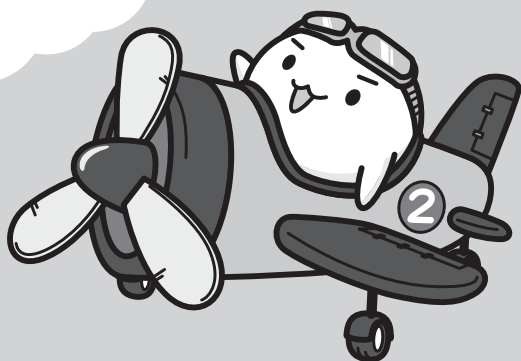
技術相談窓口　受付時間：9:00～19:00（年中無休）
[電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください]

海外からの電話、携帯電話、PHS、または直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。その場合は TEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。日程は、dynabook.com「サポート情報」（http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm）にてお知らせいたします。

お客様の個人情報の取り扱い全般に関する当社の考えかたをご覧になりたいかたは、（株）東芝の個人情報保護方針のページ（http://www.toshiba.co.jp/privacy/index_j.htm）をご覧ください。

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1 ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能をご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 パソコン本体について

スイッチ／ボタンの操作にあたって

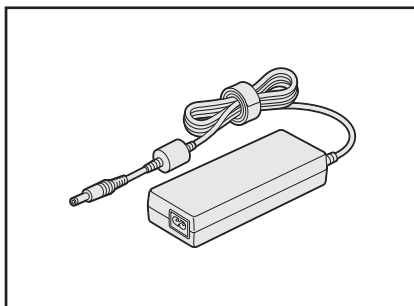
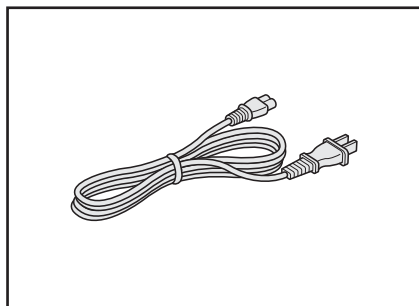
- スイッチ／ボタンを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使ったりしないでください。スイッチ／ボタンが故障するおそれがあります。

機器への強い衝撃や外圧について

- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。
- パソコンの表面を硬いものでこすると傷がつくことがあります。
  取り扱いにはご注意ください。

付録

2 電源コード、ACアダプターの取り扱いについて

- 電源コードやケーブルは束ねずに、ほどいた状態で使用してください。ご使用時は、あらかじめ『安心してお使いいただくために』に記載されている記述をよく読み、必ず指示を守ってください。
- 電源コードやACアダプターを持ち運ぶときには、次の図のように正しくケーブルを束ねてください。

電源コード、ACアダプターは、購入されたモデルにより異なります。

3 ウイルスチェック・セキュリティ対策について

使用するにあたって

- 本製品に用意されている「ウイルスバスター」は90日間の使用期限があります。必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、ほかのウイルスチェック/セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ウイルスチェック/セキュリティ対策ソフトをご使用になる場合には、必ずウイルス定義ファイルの最新版を使用してください。
  ウイルス感染を防止するには、常に最新のウイルス定義ファイルが必要です。
- すでにインストールしてあるウイルスチェック/セキュリティ対策ソフトとは別のウイルスチェック/セキュリティ対策ソフトをインストールする場合は、すでにインストールしているものをすべてアンインストールしてから行ってください。

参照 ウイルスバスターのセキュリティ機能について「ウイルスバスター」のヘルプ

4 「i-フィルター6.0」について

使用期限について

- 無料使用期間はご使用開始より90日間です。無料使用期間が過ぎますと、設定がすべて解除されフィルタリング機能がご使用できなくなります。無料使用期間中に有料にて正規サービスをお申し込みいただくことで、継続して使用することができます。

5 周辺機器について

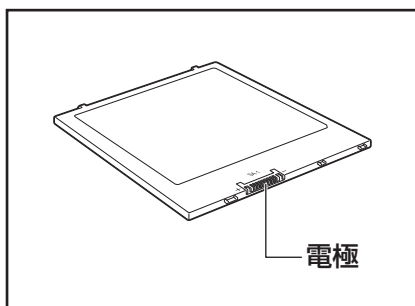
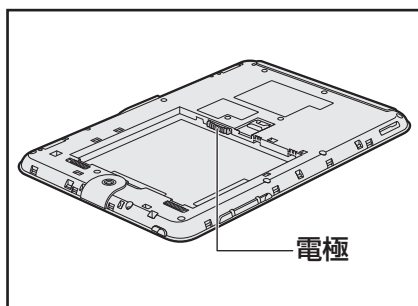
パソコン本体への機器の取り付け/取りはずしについて

- 取り付け/取りはずしの方法は機器によって違います。3章および『オンラインマニュアル』を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け/取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ほこりが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い/低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境(乾燥した場所やカーペット敷きの場所など)では作業をしないでください。
  - ・本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
  - ・作業時に使用するドライバーは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

6 バッテリーについて

バッテリーを使用するにあたって

- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源プラグをコンセントからはずし、電源コネクタからACアダプタープラグを抜いてから作業を行ってください。ブリッジメディアスロットにメディアカードをセットしている場合は、取り出してください。スリープを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

- バッテリーパックをパソコンに取り付けたときは、バッテリー安全ロックおよびカバーロックがロック側になっていることを必ず確認してください。
  安全ロックおよびカバーロックがロック側になっていないと、持ち運びのときにバッテリーパックがはずれて落ちるおそれがあります。

  参照 詳細について「3章 2 - 2 バッテリーパックを交換する」
- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
  バッテリーを使いきってしまうと、スリープが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。このような場合は、ACアダプターを接続してバッテリーを充電してください。

バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。
  バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

社団法人　電子情報技術産業協会の「バッテリ関連Q&A集」について
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/battery/menu1.htm

7 バックアップについて

バックアップをとるにあたって

- ユーザー名がリカバリー後と異なる場合、バックアップしたデータが復元できない場合があります。リカバリーをする前にユーザー名を控えてください。

参照 リカバリーについて「4章 買ったときの状態に戻すには」

- 内蔵フラッシュメモリや記録メディアに保存しているデータは、万が一故障が起きた場合や、変化／消失した場合に備えて定期的にバックアップをとって保存してください。
  内蔵フラッシュメモリや記録メディアに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いません。

8 「東芝ファイルレスキュー」について

データを救助／復元するにあたって

- 本ソフトウェアは、内蔵フラッシュメモリ上のすべてのファイルの救助、復元を保証するものではありません。
  当社は、いかなる場合においても、本ソフトウェアの使用によって生じたデータの損害についていっさいの責任を負わないものとします。
- 内蔵フラッシュメモリが破損している場合、または内蔵フラッシュメモリ上のファイルが破損している場合は、救助、復元することができません。
- 「東芝ファイルレスキュー」は、OSが起動しないときに、内蔵フラッシュメモリ上のファイルを別の保存用記録メディアへ退避するためのものです。その他の用途では使用しないでください。
- データを救助するとき、データ保存用の記録メディアは、パソコンの電源を入れる前にセットしてください。電源を入れたあとにセットすると正しく認識されないことがあります。
- プログラムファイル、またはプログラム用のデータファイルを救助しても、復元後に正常に動作することを保証できません。
- 著作権保護、またはコピープロテクションによって保護されたファイルを救助しても、復元後に正常に動作することを保証できません。
- システム属性を持つファイル、および、暗号化されたファイルは救助できません。暗号化された内蔵フラッシュメモリからは、救助できません。これらの救助できないファイルは、救助対象を選択、または確認する一覧の中に表示されません。
- データを救助するときはすべてのユーザーのユーザーデータを一度に救助することができますが、データを復元するときは一回の復元実行によって一つのユーザーアカウント分のデータだけを復元します。復元したファイルは、復元処理を実行したユーザーアカウントの所有ファイルとなります。
  ファイルの所有者となるユーザーアカウントでログオンし、復元処理を実行してください。
- 復元実行中にスリープ／休止状態へ移行する操作を行わないでください。
- データ保存用の記録メディアとしてCD／DVDを使用するときは、データを確実に救助するために、新しい記録メディアを使用することをおすすめします。

2 技術基準適合について

『オンラインマニュアル』にも技術基準適合に関する説明が記載されています。本書だけでなく、『オンラインマニュアル』の記載もあわせてご確認ください。

■瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

■高調波対策について

参照 『オンラインマニュアル』

■電波障害自主規制について

参照 『オンラインマニュアル』

■「FCC information」について

参照 『オンラインマニュアル』

■EU Declaration of Conformityについて

CE

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe GmbH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany. The complete and official EU Declaration of Conformity can be found on TOSHIBA's web site
http://epps.toshiba-teg.com on the Internet.

CE compliance

This product is labelled with the CE Mark in accordance with the related European Directives, notably Electromagnetic Compatibility Directive 2004/108/EC for the notebook and the electronic accessories including the supplied power adapter, the Radio Equipment and Telecommunications Terminal Equipment Directive 1999/5/EC in case of implemented telecommunication accessories and the Low Voltage Directive 2006/95/EC for the supplied power adapter. Furthermore the product complies with the Ecodesign Directive 2009/125/EC (ErP) and its related implementing measures.
This product and the original options are designed to observe the related EMC (Electromagnetic Compatibility) and safety standards. However, TOSHIBA cannot guarantee that this product still observes these EMC standards if options or cables not produced by TOSHIBA are connected or implemented. In this case the persons who have connected/implemented those options/cables have to provide assurance that the system (PC plus options/cables) still fulfils the required standards. To avoid general EMC problems, the following guidance should be noted:

- Only CE marked options should be connected/implemented
- Only best shielded cables should be connected

Working environment

This product was designed to fulfil the EMC (Electromagnetic Compatibility) requirements to be observed for so-called “Residential, commercial and light industry environments”. TOSHIBA do not approve the use of this product in working environments other than the above mentioned “Residential, commercial and light industry environments”.
For example, the following environments are not approved:

- Industrial Environments (e.g. environments where a mains voltage of 380 V three-phase is used)
- Medical Environments
- Automotive Environments
- Aircraft Environments

Any consequences resulting from the use of this product in working environments that are not approved are not the responsibility of TOSHIBA.
The consequences of the use of this product in non-approved working environments may be:

- Interference with other devices or machines in the near surrounding area.
- Malfunction of, or data loss from, this product caused by disturbances generated by other devices or machines in the near surrounding area.

Therefore TOSHIBA strongly recommend that the electromagnetic compatibility of this product should be suitably tested in all non-approved working environments before use. In the case of automobiles or aircraft, the manufacturer or airline respectively should be asked for permission before use of this product.

Furthermore, for general safety reasons, the use of this product in environments with explosive atmospheres is not permitted.

3 無線LANについて

1 無線LANの概要

本製品には、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11nのすべて、もしくはその一部に準拠した無線LANモジュールが搭載されています。次の機能をサポートしています。

- 周波数チャネル選択
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント

2 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

無線周波数帯	IEEE802.11b, IEEE802.11g, IEEE802.11n	2.4GHz（2400-2483MHz）
変調方式	IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK
	IEEE802.11n	直交周波数分割多重方式（OFDM方式）

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 サポートする周波数帯域

無線LANがサポートする2.4GHz 帯のチャネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11 チャネルセット」参照）。

■無線IEEE802.11 チャネルセット

● 2.4GHz帯：2400-2483MHz（IEEE802.11b/g、IEEE802.11nの場合）

チャネルID	周波数
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457＊1
11	2462
12	2467
13	2472

＊1 購入時に、アドホックモード接続時に使用するチャネルとして設定されているチャネルです。

4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

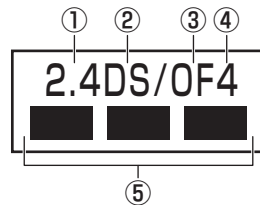
日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz〜2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz〜2,470.75MHzと重複しています。

■ステッカー

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーをパソコン本体に貼り付けてください。

> この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。
> 1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
> 2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
> 3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

■現品表示

本製品には、次に示す現品表示が記載されています。

① 2.4　　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
② DS　　：変調方式がDS-SS方式であることを示す。
③ OF　　：変調方式がOFDM方式であることを示す。
④ 4　　：想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
⑤ ■■■：2,400MHz〜2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

■東芝PCあんしんサポート

東芝PCあんしんサポートの連絡先は、『東芝PCサポートのご案内』を参照してください。

付録

5 機器認証表示について

機器認証表示については、付属の無線LANとBluetoothに関するお知らせを参照してください。

6 お知らせ

無線製品の相互運用性

本製品に搭載されている無線LANモジュールは、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）／Orthogonal Frequency Division Multiplexing（OFDM）無線技術を使用するあらゆる無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs（Revision b/g/n）（無線LAN標準規格（版数 b/g/n））
- Wi-Fi Allianceの定義するWireless Fidelity（Wi-Fi）認証
  Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。

健康への影響

本製品に搭載されている無線LANモジュールは、ほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルにおさえられています。
本製品に搭載されている無線LANモジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がWireless LANの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でWireless LAN装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN装置の電源を入れる前に、個々の組織または施設環境の管理者に対して、本製品の使用可否について確認してください。

規制に関する情報

本製品に搭載されている無線LANモジュールのインストールと使用に際しては、必ず製品付属の説明書に記載されている製造元の指示に従ってください。
本製品は、無線周波基準と安全基準に準拠しています。

●Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device.
The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

●USA - Federal Communications Commission (FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.
If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this the Wireless LAN, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Wireless LAN is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Wireless LAN shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.
In the usual operating configuration, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm. Please refer to the PC user’s manual for the details regarding antenna location.
The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada’s website
www.hc-sc.gc.ca/

● Europe

Restrictions for Use of 2.4GHz Frequencies in European Community Countries

België/ Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.
	Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke groud over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.
	Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de I'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter I'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.
	Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.
	Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1-7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter I'Autorité de Régulation des Télécommuniations (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure à suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed.
	E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.
	Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure.

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the Wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

●Taiwan

Article 12

Without permission granted by the NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to an approved low power radio-frequency devices.

Article 14

The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications;

If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.

The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.

The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

7 使用できる国／地域について

使用できる国／地域については、付属の無線LANとBluetoothに関するお知らせを参照してください。

4 Bluetoothについて

＊Bluetooth機能搭載モデルのみ

1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver.3.0
	無線周波数帯	2.4GHz（2402～2480MHz）
	変調方式	周波数ホッピング方式　2値FSK
	出力＊1	最大＋4dBm（Power Class2）
	受信感度＊1	－70dBm
	通信距離	見通し10m＊2
電源電圧		3.3V
消費電力		最大200mA

＊1 アンテナの効率は含まれません。
＊2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

2 無線特性

Bluetoothモジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は国／地域によって使用が規制されています。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
本製品のBluetooth通信機能が使用できる国／地域については、付属の無線LANとBluetoothに関するお知らせを参照してください。
無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

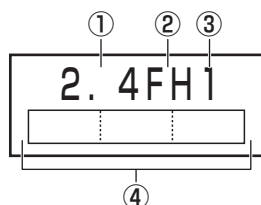
■ステッカー

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーをパソコン本体に貼り付けてください。

この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

■現品表示

本製品には、次に示す現品表示が記載されています。

① 2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
② FH　：変調方式がFH-SS方式であることを示す。
③ 1　：想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
④ ▭　：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

■東芝PCあんしんサポート

東芝PCあんしんサポートの連絡先は、『東芝PCサポートのご案内』を参照してください。

付録

4 機器認証表示について

機器認証表示については、付属の無線LANとBluetoothに関するお知らせを参照してください。

5 お知らせ

■無線製品の相互運用性

Bluetooth 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum（FHSS）無線技術を使用するあらゆるBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group策定のBluetooth Specification Ver.3.0
- Bluetooth Special Interest Groupの定義するBluetooth ワイヤレステクノロジーのLogo認証

メモ

- 本製品はすべてのBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。ご使用にあたっては、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

(1) 本製品はBluetooth Version3.0仕様に準拠しております。
Bluetooth Version1.0B 仕様のBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。

(2) 2.4GHz帯のWireless-LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

(3) BluetoothとWireless-LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、Wireless-LANのいずれかの使用を中止してください。

■健康への影響

Bluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルにおさえられています。
Bluetooth 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がBluetooth ワイヤレステクノロジーの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

Regulatory statements

●General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/ Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

●European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

●Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."
L ' utilisation de ce dispositif est autorisee seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit etre pret a accepter tout brouillage radioelectrique recu, meme si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.
The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

●USA - Federal Communications Commission (FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a articular installation.
If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Bluetooth Card from TOSHIBA, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Bluetooth Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Bluetooth Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper/lower edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Bluetooth has been tested with Wireless LAN transceiver for co-location requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website

www.hc-sc.gc.ca/

●Taiwan

Article 12　Without permission granted by the NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to a approved low power radio-frequency devices.

Article 14　The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications; If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.

The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.

The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

6 使用できる国／地域について

使用できる国／地域については、付属の無線LANとBluetoothに関するお知らせを参照してください。

さくいん

英数字

あ行

か行

さ行

た行

は行

ま行

ら行

わ行

リカバリー（再セットアップ）チェックシート

リカバリーは、本ページをコピーするなどして、次の項目を順番にチェックしながら実行してください。本ページに記載されている各チェック項目の詳細は、「4章 買ったときの状態に戻すには」で説明しています。

1 リカバリーをする前に確認すること

□ ウイルスチェックソフトで、ウイルス感染のチェックを実行する
□ セーフモードで起動できるかどうか実行してみる
□ 周辺機器をすべて取りはずし、再度確認してみる
□「5章 困ったときは」をご覧になり、ほかのトラブル解消方法を探してみる
□ システムの復元で以前の状態に復元する

2 リカバリーをはじめる前にしておくこと

□ **①準備するもの**
　□『取扱説明書』（本書）
　□ このリカバリーチェックシートをコピーしたもの
　□ リカバリーメディア（作成したリカバリーメディアからリカバリーする場合）
□ **②必要なデータのバックアップをとる**
　バックアップをとることができる場合は、とっておいてください。リカバリーをすると、購入後に作成したデータはすべて消失します。
　□［ドキュメント］（または［マイ ドキュメント］）、［ピクチャー］（または［マイ ピクチャー］）などのデータ
　□ 購入後にデスクトップに保存したデータ
　□ Microsoft Internet Explorerの［お気に入り］のデータ
　□ メール送受信データ　□メールアドレス帳
　□ プレインストールされているアプリケーションのデータやファイル
　□ 購入後にインストールしたアプリケーションのデータ
　□ 購入後に作成したフォルダーやファイル
　参照 バックアップについて『オンラインマニュアル』
□ **③アプリケーションのセットアップ用のメディアを確認する**
　購入後にインストールしたアプリケーションなどは、リカバリー後にインストールする必要があります。リカバリーした直後は、お客様がインストールしたソフトなどは復元されません。ご購入されたメディアなどから再度インストールしてください。
□ **④各種設定を確認する**
□ **⑤あらかじめ、音量を調節する**
　リカバリー後、Windowsセットアップが終了するまで音量の調節ができないためです。
□ **⑥無線LAN機能がONであるか確認する**
□ **⑦周辺機器をすべて取りはずす**

3 リカバリー（再セットアップ）の流れ

リカバリーをする場合は、次のような流れで作業を行ってください。

□ ①リカバリー（再セットアップ）
□ ②周辺機器（マウス・プリンターなど）を取り付けて、設定する
□ ③インターネットやメールの設定
□ ④ウイルスチェックソフトの設定と更新
□ ⑤Windows Update
□ ⑥アプリケーションのインストール
□ ⑦データの復元